



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成25年3月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成24年12月	平成25年3月	前回調査比
茨城県	38.2	48.9	+10.7
県北地域	33.9	44.5	+10.6
県央地域	38.9	50.5	+11.6
鹿行地域	39.7	47.3	+7.6
県南地域	41.0	56.1	+15.1
県西地域	37.5	45.9	+8.4

《景気の先行き判断DI》

	平成24年12月	平成25年3月	前回調査比
茨城県	40.7	54.9	+14.2
県北地域	38.8	52.0	+13.2
県央地域	41.2	58.8	+17.6
鹿行地域	39.7	52.2	+12.5
県南地域	43.9	59.0	+15.1
県西地域	40.1	52.3	+12.2

平成25年4月

茨城県企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	(1) 景気の現状判断D I	3
	(2) 景気の先行き判断D I	4
2	地域別の動向	5
	(1) 景気の現状判断D I	5
	(2) 景気の先行き判断D I	8
3	回答率	10
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	21
3	その他の意見	31

問い合わせ先

茨城県統計課庶務・企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成25年3月1日現在

地域	市 及 び 郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	37	39	39	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業	19	17	16	19	20	91
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	5	4	4	21

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成25年3月調査の調査期間は、平成25年3月1日から平成25年3月31日である。

5 利用上の注意

- (1) D I (Diffusion Index) は景気の方角性 (景気が上向きか下向きか) をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第 1 位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は 100% とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり 5 段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気の方角性をみるための指標 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例
回答者数 100 名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良くな っている	変わらない	やや悪くな っている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、D I 値は、

$$(1 \text{点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{点} \times 11.0\%) + (0 \text{点} \times 22.0\%) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \text{点} \times 100\%) = 50$ となることから、50 を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、また 50 を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

II 調査結果の概要

1 全県の動向

(1)景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは48.9となった。平成24年12月の調査（以下、「前回調査」という。）より10.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を22期連続で下回った。

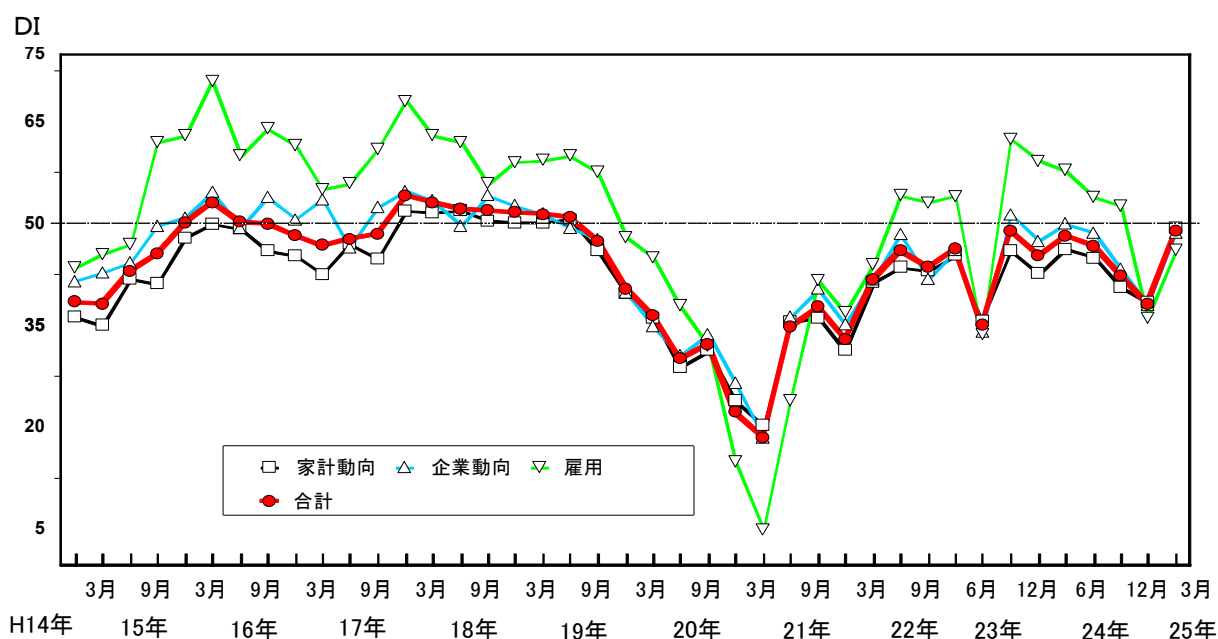
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	平成24年 3月	平成24年 6月	平成24年 9月	平成24年 12月	平成25年 3月
合計		48.2	46.7	42.3	38.2	48.9
家計動向関連		46.2	44.9	40.7	38.4	49.4
小売関連		48.5	41.5	43.5	37.3	48.5
飲食関連		38.2	55.6	40.5	41.7	50.0
サービス関連		46.5	45.1	38.0	37.5	48.5
住宅関連		41.7	47.2	41.7	47.2	61.1
企業動向関連		50.0	48.6	43.4	38.1	48.6
農林水産業		40.6	43.8	34.4	50.0	37.5
製造業		45.3	47.3	41.5	34.5	42.4
非製造業		58.1	51.4	47.9	39.6	58.3
雇用関連		57.9	53.9	52.6	36.1	46.1

表1-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	1.5%	21.9%	53.2%	14.9%	8.6%
平成24年 6月	1.8%	21.6%	42.8%	29.1%	4.7%
平成24年 9月	0.7%	16.9%	43.7%	28.5%	10.2%
平成24年12月	0.4%	10.8%	42.2%	34.3%	12.3%
平成25年 3月	1.5%	24.3%	48.9%	19.0%	6.3%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは54.9となった。前回調査より14.2ポイント上昇し、横ばいを表す50を21期ぶりに上回った。

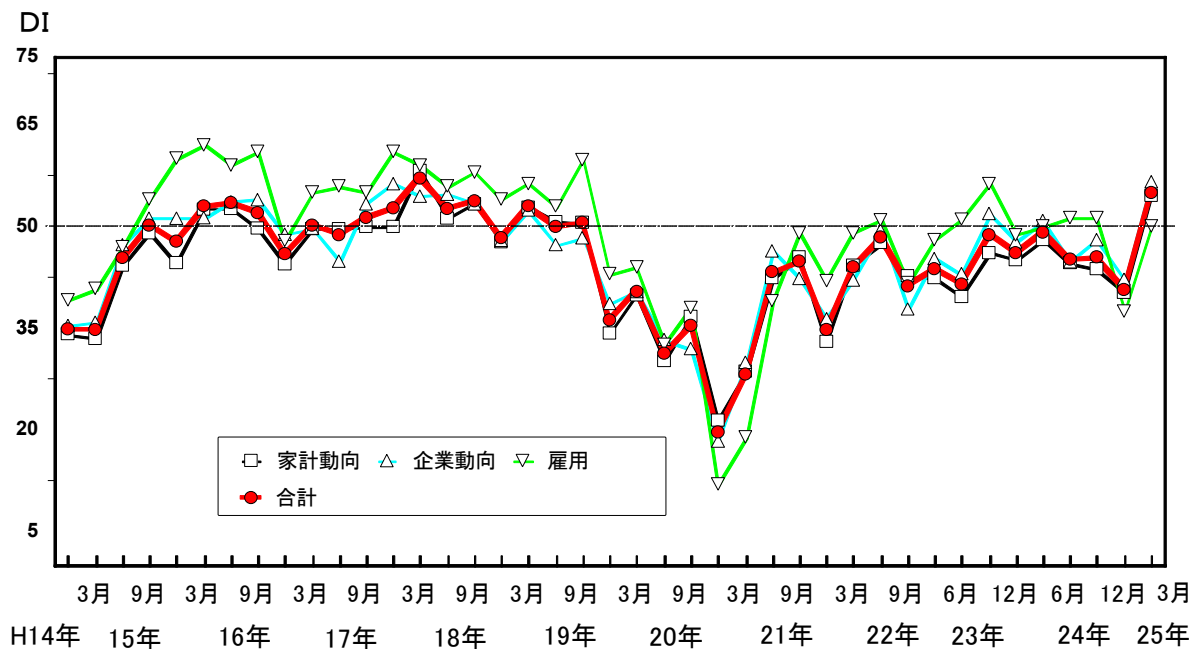
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		49.1	45.1	45.5	40.7	54.9
家計動向関連		48.0	44.6	43.7	40.3	54.5
小売関連		48.5	44.4	44.2	42.3	50.8
飲食関連		51.5	48.6	48.8	35.7	54.8
サービス関連		46.5	44.1	41.7	38.9	55.6
住宅関連		50.0	41.7	44.4	47.2	72.2
企業動向関連		50.9	44.7	48.0	42.2	56.6
農林水産業		43.8	53.1	46.9	50.0	40.6
製造業		49.4	42.4	43.8	39.3	54.1
非製造業		54.4	45.7	53.6	43.8	63.2
雇用関連		50.0	51.3	51.3	37.5	50.0

表1-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	0.7%	23.4%	52.4%	18.2%	5.2%
平成24年 6月	0.4%	15.5%	52.2%	28.1%	4.0%
平成24年 9月	1.4%	15.1%	55.3%	20.4%	7.7%
平成24年 12月	0.4%	9.0%	54.2%	26.0%	10.5%
平成25年 3月	3.0%	35.8%	41.8%	16.4%	3.0%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは44.5となった。前回調査より10.6ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を6期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		49.1	42.4	38.6	33.9	44.5
家計動向関連		46.3	39.2	33.8	32.4	45.7
企業動向関連		52.9	46.1	44.7	35.5	43.1
雇用関連		58.3	58.3	58.3	41.7	41.7

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	1.9%	24.1%	53.7%	9.3%	11.1%
平成24年 6月	0.0%	20.3%	33.9%	40.7%	5.1%
平成24年 9月	0.0%	13.6%	40.7%	32.2%	13.6%
平成24年 12月	0.0%	12.5%	32.1%	33.9%	21.4%
平成25年 3月	4.0%	18.0%	42.0%	24.0%	12.0%

② 県央地域

景気の現状判断DIは50.5となった。前回調査より11.6ポイント上昇し、横ばいを表す50を22期ぶりに上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		50.0	44.5	47.2	38.9	50.5
家計動向関連		48.3	43.6	48.6	40.4	52.2
企業動向関連		52.9	47.1	43.3	35.3	47.1
雇用関連		50.0	41.7	50.0	41.7	50.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	4.0%	16.0%	60.0%	16.0%	4.0%
平成24年 6月	0.0%	23.6%	40.0%	27.3%	9.1%
平成24年 9月	1.9%	15.1%	54.7%	26.4%	1.9%
平成24年 12月	0.0%	11.1%	42.6%	37.0%	9.3%
平成25年 3月	0.0%	33.3%	42.6%	16.7%	7.4%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは47.3となった。前回調査より7.6ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を21期連続で下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		49.1	49.1	42.8	39.7	47.3
家計動向関連		50.0	52.7	42.8	36.5	45.8
企業動向関連		43.3	42.2	39.1	51.8	48.3
雇用関連		60.0	45.0	55.0	30.0	55.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	0.0%	26.8%	48.2%	19.6%	5.4%
平成24年 6月	1.7%	22.4%	50.0%	22.4%	3.4%
平成24年 9月	0.0%	22.0%	40.7%	23.7%	13.6%
平成24年12月	0.0%	12.5%	41.1%	39.3%	7.1%
平成25年 3月	0.0%	17.9%	57.1%	21.4%	3.6%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは56.1となった。前回調査より15.1ポイント上昇し、横ばいを表す50を3期ぶりに上回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		48.2	54.4	47.3	41.0	56.1
家計動向関連		46.2	48.3	43.2	44.5	57.3
企業動向関連		51.4	61.8	51.4	37.5	58.3
雇用関連		50.0	68.8	62.5	25.0	37.5

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	1.8%	18.2%	56.4%	18.2%	5.5%
平成24年 6月	3.9%	27.5%	51.0%	17.6%	0.0%
平成24年 9月	0.0%	25.5%	43.6%	25.5%	5.5%
平成24年12月	0.0%	7.5%	56.6%	28.3%	7.5%
平成25年 3月	3.8%	32.1%	49.1%	15.1%	0.0%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは45.9となった。前回調査より8.4ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を22期連続で下回った。

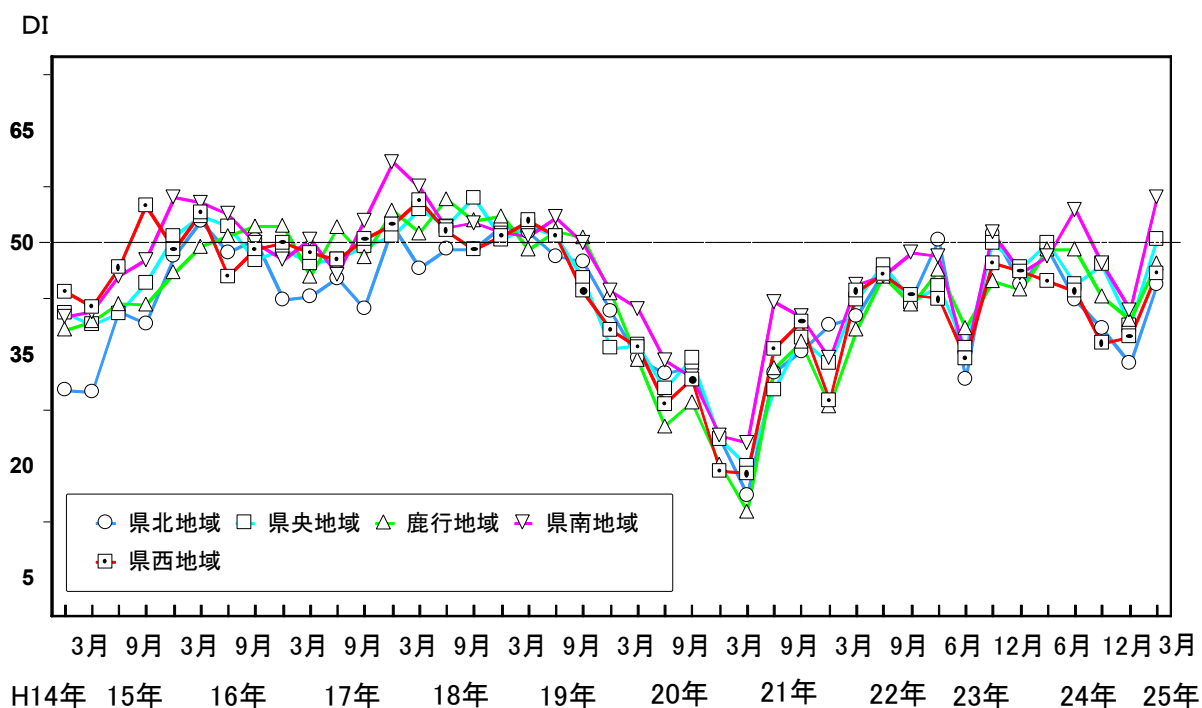
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査月	平成24年 3月	平成24年 6月	平成24年 9月	平成24年 12月	平成25年 3月
合計		44.9	43.6	36.6	37.5	45.9
家計動向関連		39.8	40.3	35.7	38.9	46.1
企業動向関連		48.6	46.3	38.2	33.3	46.1
雇用関連		68.8	56.3	37.5	43.8	43.8

表2-10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	0.0%	24.1%	48.1%	11.1%	16.7%
平成24年 6月	3.6%	14.5%	40.0%	36.4%	5.5%
平成24年 9月	1.7%	8.6%	39.7%	34.5%	15.5%
平成24年 12月	1.7%	10.3%	39.7%	32.8%	15.5%
平成25年 3月	0.0%	20.0%	52.7%	18.2%	9.1%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.0となった。前回調査より13.2ポイント上昇し、横ばいを表す50を6期ぶりに上回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		47.7	42.8	46.6	38.8	52.0
家計動向関連		43.4	41.9	47.3	39.0	51.7
企業動向関連		54.4	43.4	43.4	40.8	52.8
雇用関連		58.3	50.0	58.3	25.0	50.0

表2-12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	1.9%	18.5%	55.6%	16.7%	7.4%
平成24年 6月	0.0%	15.3%	47.5%	30.5%	6.8%
平成24年 9月	5.1%	11.9%	55.9%	18.6%	8.5%
平成24年12月	0.0%	7.1%	57.1%	19.6%	16.1%
平成25年 3月	4.0%	34.0%	32.0%	26.0%	4.0%

② 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは58.8となった。前回調査より17.6ポイント上昇し、横ばいを表す50を22期ぶりに上回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		49.5	45.9	47.2	41.2	58.8
家計動向関連		49.1	45.0	45.7	40.4	58.1
企業動向関連		51.5	48.5	51.7	45.6	63.2
雇用関連		50.0	41.7	41.7	25.0	41.7

表2-14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	2.0%	24.0%	48.0%	22.0%	4.0%
平成24年 6月	0.0%	14.5%	58.2%	23.6%	3.6%
平成24年 9月	1.9%	20.8%	47.2%	24.5%	5.7%
平成24年12月	0.0%	11.1%	48.1%	35.2%	5.6%
平成25年 3月	5.6%	42.6%	33.3%	18.5%	0.0%

③ 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.2となった。前回調査より12.5ポイント上昇し、横ばいを表す50を4期ぶりに上回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		52.2	48.7	47.5	39.7	52.2
	家計動向関連	52.8	51.4	45.4	37.8	50.7
	企業動向関連	53.3	42.2	50.0	42.9	53.3
	雇用関連	45.0	50.0	55.0	45.0	60.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	0.0%	32.1%	50.0%	12.5%	5.4%
平成24年 6月	1.7%	17.2%	58.6%	19.0%	3.4%
平成24年 9月	0.0%	13.6%	71.2%	6.8%	8.5%
平成24年 12月	0.0%	5.4%	57.1%	28.6%	8.9%
平成25年 3月	0.0%	30.4%	53.6%	10.7%	5.4%

④ 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは59.0となった。前回調査より15.1ポイント上昇し、横ばいを表す50を21期ぶりに上回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		47.3	47.1	49.1	43.9	59.0
	家計動向関連	51.5	48.3	44.7	44.5	60.5
	企業動向関連	38.9	42.6	54.2	44.4	58.3
	雇用関連	50.0	56.3	62.5	33.3	50.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	0.0%	18.2%	60.0%	14.5%	7.3%
平成24年 6月	0.0%	13.7%	60.8%	25.5%	0.0%
平成24年 9月	0.0%	21.8%	56.4%	18.2%	3.6%
平成24年 12月	0.0%	7.5%	67.9%	17.0%	7.5%
平成25年 3月	3.8%	43.4%	39.6%	11.3%	1.9%

⑤ 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.3となった。前回調査より12.2ポイント上昇し、横ばいを表す50を5期ぶりに上回った。

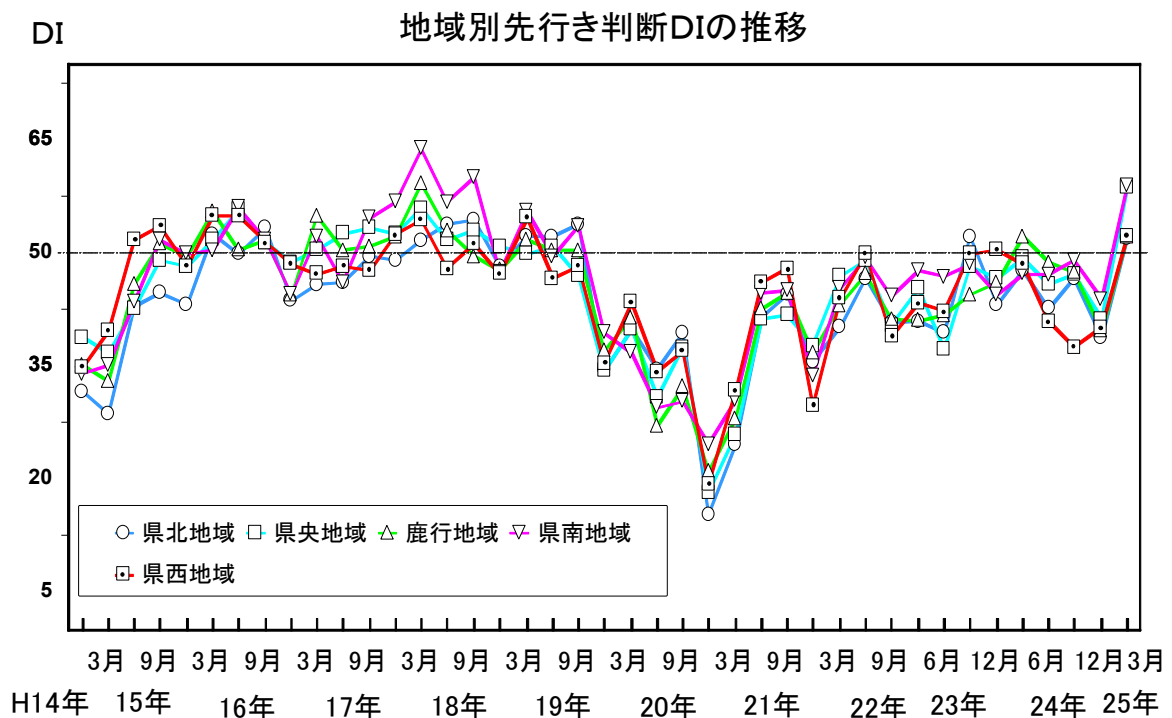
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査月	平成24年	平成24年	平成24年	平成24年	平成25年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		48.6	40.9	37.5	40.1	52.3
家計動向関連		43.8	35.5	35.0	40.3	51.6
企業動向関連		56.9	46.3	42.1	37.5	55.3
雇用関連		50.0	56.3	37.5	50.0	43.8

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成24年 3月	0.0%	24.1%	48.1%	25.9%	1.9%
平成24年 6月	0.0%	16.4%	36.4%	41.8%	5.5%
平成24年 9月	0.0%	8.6%	44.8%	34.5%	12.1%
平成24年 12月	1.7%	13.8%	41.4%	29.3%	13.8%
平成25年 3月	1.8%	29.1%	49.1%	16.4%	3.6%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	268 人	89.3%
県北地域	60 人	50 人	83.3%
県中央地域	60 人	54 人	90.0%
鹿行地域	60 人	56 人	93.3%
県南地域	60 人	53 人	88.3%
県西地域	60 人	55 人	91.7%

Ⅲ 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	家計	タクシー運転手	1日平均の売り上げが4,000円程良くなった。	
		ゴルフ場	1～3月の各月1日時点での予約数は、前年同期比+12%、3カ月前計画比+24%改善している。総来場者数は、1日時点の良さ他コースからの流れ増があり、前年同期比+19%、3カ月前計画比+27%良くなっている。	
やや良くなっている	家計	スーパー	果物、特にみかんは割高でもおいしい品物のほうが売れる。惣菜でもおいしければ価格に関係なく売れるので、来客数は同じでも客の雰囲気がいい。	
		スーパー	品質の良い商品で価格がある程度納得していただけると買っていただけている。一部ではまだ価格のみの感もあるが。数量は伸びていない。健康関連商品は売れている。	
		コンビニエンスストア	前年比が好転している。また、福島県からの客として流入が増えている様子で、客数も増加している。	
		小売業（工具）	政権交代とその後の株価上昇により、多少明るいムードが出てきたので、極端な買い控えは減少していると思われる。ある程度の上限を設定した購買傾向は上向いていると思われる。	
		ドライブイン	雪の影響があったにもかかわらず、客数は昨年と比べアップしている。観光バスは多くなってきた。（客単価は相変わらず低い）	
	企業	製造業（精密機器）	期末のせいか、仲間からも加工依頼が増えてきている。	
		製造業（電気機械器具）	作業量が増えてきている。	
		サービス業（広告業）	年度末と復興予算をねらっての動きがある。	
	雇用	学校就業関係者	建築業の求人も増えている。企業側に期待感を強くしている所が多くなっている感がある。	
	変わらない	家計	衣料品販売店	私達の業界は真冬のように冷えこんだままです。
金物・荒物・建築資材			受注が横ばい。	
小売業（酒類）			例年金曜日は得意先飲食店さんは必ず盛況であったが、今年はあてにできなかった様子。店頭販売に関しては、たばこのお客様が減っている。	
スナック			政権が交代してまだ混乱していて、みんな成り行きを見守っている感じがする。	
観光型ホテル			宿泊、日帰り利用ともに、昨年同期とほぼ変わらない予約状況である。	
タクシー運転手			自民党政権がいよいよ始動し、その経済政策運営効果が県北タクシー業界の景気動向を左右する大手工業群のタクシー利用を促進させると思っていたが、今のところ影響は少なく、相変わらずの低レベルな売り上げで変化は少ない。	
ボウリング場			売り上げ前年比率で3カ月同じである。	
レジャー施設			3カ月前と比較しても客単価は大きく変わっておらず、これといった良い材料、悪い材料も見られないため。	
住宅販売会社			ニュース等では景気回復が騒がれているが、まだ良くなっている実感がない。	
企業		林業関係者	現在はそれほど良くなった感はないようである。	
		製造業（電気機械器具）	仕事量に特に変化がない。	
		製造業（電気機械器具）	3カ月前に比べ、生産の回転率は上がったものの、受注は少ないままである。（特に海外）	
		製造業（輸送用機械器具）	中国での日本車販売不振の影響により予想通り生産が減少し、当初計画を下回っている現状。北米市場は低金利などを背景に依然好調な販売を継続、欧州市場は景気後退の影響から大幅減少している。また、各メーカー共に国内輸出から現地調達に変更しており、日本での生産は減少傾向が継続している。	
		建設業	仕事量は多く、取引業者は押し並べて忙しい状況が続いている。しかしながら、仕入単価と受注単価の差は大きくなっており、この差が縮まってこなければ景気は上向いてこないと思う。	
		運輸業	昨年末からの円安により顧客の生産計画の見直し等、明るい話題が多くなっております。その反面、原油高等の輸入品の高騰も影響しています。	
		情報通信業（情報サービス業）	景気が良くなっているというニュースは聞くが、相変わらず商談も少なく、大きな変化は見受けられない。	
		金融業	設備投資の相談は増加傾向にあるが、取引先の売り上げは横ばいであり、既存の貸出金に対する条件変更等の相談が依然として多い。	
		不動産業	受注売上額とも、目に見えるような上方には転じていない。	
		雇用	求人开拓員	募集が多いのは、介護・警備・土木・派遣等の業種で、景気動向に結びつく状況ではない。これらの業種は、常に人材不足していて景気の判断には使えない。

やや悪くなっている	家計	商店街代表者	アベノミクスによる経済効果が見えて来ない。一般雇用の給与に変化ないのが原因か。次にくる消費増税による影響が心配される。	
		コンビニエンスストア	売り上げに大きな影響を及ぼしている店舗は少ないが、客単価や商品単価への影響が若干見られる店舗もあり、企業のリストラなどの影響があると考えられる。（予約の受付も悪い店舗がある。）	
		自動車販売店	例年この時期は新卒者などで売り上げは増加するものの、昨年の補助金効果による増加がない今年は例年並みである。世間で景気が良くなっていると言われてはいるが、原油の高騰でエコカーや軽自動車の販売が多く、利益率は悪くなっている。	
		小売業（時計）	寒さの影響もあると思われるが、人の出が悪い。	
		和食食堂	11月と2月では、11月が悪すぎて2月は例年と同じ位。毎年2月は1年のうちで最低です。	
		タクシー運転手	景気予想が不透明である。	
		ゴルフ場	この時期の宿泊客（自動車教習所）が減少した。	
企業	企業	水産業関係者	原油高への懸念がある。	
		製造業（一般機械器具）	作業消化量（製造品物量）が見込みより落ちている。	
		製造業（電気機械器具）	受注が減少している。	
		製造業（電気機械器具）	年度末は公共事業の関連もあり、生産台数が落ちる。	
悪くなっている	家計	居酒屋	売り上げが少ない。	
		理・美容店	12月と比較したら人通り、バス停のお客様はかなり少ない。企業のリストラもあり良くない。	
		クリーニング店	客数が大きく減少している。	
	企業	企業	製造業（製缶）	客先からの受注が減っている。客単価は減少傾向。
			製造業（電気機械器具）	部署によって業務量の偏りがある。原子力関連の部署は業務量が少なく、一般産業向け、特にスマートフォン関連や自動車関連はやや多めである。平均してみれば少ない。
	雇用	公共職業安定所	新規求人は、震災以降の23年4月以降前年同月比が増加傾向に転じ、24年9月まで前年同月比18カ月連続での増加となっていたが、24年10月に減少に転じた。また、有効求人倍率は、22年6月以降24年10月まで29カ月連続での増加を続けていたが、11月0.84（24年0.91）と減少に転じ、雇用情勢面では厳しい状況にある。また、1月の新規求人数を見ると、対前年同月比▲10.3%となり、医療福祉業を除くほとんどの産業で減少しており厳しい状況となっている。こうした要因のひとつとしては、本年12月～3月にかけて管内主要企業での早期退職・退職支援制度の実施があり、管内各企業等への影響につながっているものと思われる。	

(2) 県央地域 【現状】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	ー	ー	ー	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	売り上げなど、実際にはほとんど変化はないが気持ち的に上向き傾向とを感じる。	
		商店街代表者	毎年1月は初売りセールを行っています。今年も一昨年と昨年と同企画で実施しましたが、昨年よりも売り上げ、来店客数とも好調でした。今年は年明けから落ちる事なく好調で、単価の高い印鑑を購入され、プレゼント用も平均単価5万円位の商品を選ばれるお客様も増えております。	
		百貨店、総合スーパー	新商品の複数購入や、自分へのごほうびギフト、家族へのプレゼントなどの動きを中心に伸びてきている。	
		スーパー	アベノミクスへの期待感からか、食品に対しても単価アップ、客数アップへ微増だがつながっていると思う。 私ども食品は違いますが、円安で良い業界もあると思います。	
		コンビニエンスストア	客単価が改善傾向にあります。買上点数が上がっているの、消費者の消費行動が強くなってきていると思われま。	
		自動車販売店	ガソリン高によるお客様のハイブリッド車への購入が多く見込まれ、エコカー中心に販売は増えています。	
		農産物直売所	国産和牛等の高額食品の動きが回復傾向にある。	
		観光型ホテル	予約の電話が若干増加傾向に思われる。	
		観光名所	昨年同時期よりも人出・売り上げ等順調に推移しており、震災前の水準に近づいてきている。	
		レジャー施設	年明けからの入場者は微増となっており、少しずつではあるが回復傾向にある。	
	企業	製造業（印刷・同関連業）	年末ほどではないが、昨年の同時期と比べ売り上げが伸びている。	
		製造業（精密機械器具）	新政権の影響かどうかは分かりませんが、12月になって急に大物件の引合いが増えました。	
		不動産業	周りの方も口々に言っている。	
		サービス業（広告業）	年度末が近づき、ここ数年あった予算削減の話があまりでない。予算を使いきれぬくらいに回復したと思う。	
		サービス業（コンサルタント業）	仕事先の小売店や飲食店の前年同月比を比較すると、3カ月前と同じかやや良くなっている店舗が多い。これは、一昨年3月の東日本大震災で落ち込んだ数字が、歓送迎会の件数など昨年はまだ十分回復しておらず、今年はその分を含め数字が良くなっていると思われる。	
		サービス業（広告業）	年度末予算の動きがある。	
	雇用	求人開拓員	景気対策として、大型補正予算も組まれております。建設、土木業、輸出産業を中心に少しずつよくなるでしょう。現状を見ると、総求人数の中で正規雇用の占める割合は3カ月前とほぼ同じです。雇用の安定なくして景気（内需拡大）が良くなるとは思いません。	
	変わらない	家計	百貨店、総合スーパー	今月は3カ月前と比較すると売り上げは減少傾向であるが、それは季節的な要因である。また、前年対比では売り上げは増加傾向にあるが、客単価に大きな変化が見られないことから景気も変わらないと判断した。
			スーパー	売上高は3カ月前で前年比102%でした。2月度の結果も前年比102%と変わらずです。集客するために野菜を格安で出して、客を呼んでいる状況です。
コンビニエンスストア			お客様の購入商品、単価に変化が見られない。また、来店客数にも大きな変化は伺えない。	
家電販売店			売り上げが増加せず、電話の問い合わせも少ない。	
スーパー			所得の減少により消費活動に余裕がなく、必要な物を必要な分だけ買っている状況である。	
レストラン			外食産業については大きく変化していない。	
レストラン			集客数も大幅に増えないし、客単価も変化がない。歓送迎会時期で動きが良くなってきているが、これは時期的なもので例年と変わらない。	
レストラン			悪くはなっていませんが、良くなっている傾向もなく、横ばいといった感じです。	
都市型ホテル			現在の予約状況は3カ月前と比較して、良くなってはいない。お客様との会話でも現状維持ができていればという話が多い。	
ドライブイン			お客様のお土産用の商品は単価も数量も少なく、3カ月前と比較して景気は変わらない。	
ゴルフ場			予約数に伸びが見られず、収支的にも3カ月前と比べて大きな差はない様に見られる。	
カラオケ店			売上推移から、景気は変わらないと判断した。	
レジャー施設			当施設がまだ復旧工事中であるため、来客もあまりないので動向がつかめません。	

変 わ ら な い	家計	理・美容店	12月があまり忙しくなかったので、11月に来客したお客様が戻ってきているのだと思う。
		建築設計事務所	おもだった変化も無い状況である。
		住宅販売会社	日経平均株価が上昇し、円安も進んできたが、まだその影響が波及してこない。
	企業	製造業(食料品)	売り上げも前年と変わらず、特に大きな変化は見られない。
		建設業	受注と消化の調整で景気は安定している。
		運輸業(道路貨物運送業)	荷動きに特徴的なものは見られない。
		情報通信業(情報サービス業)	顧客からは投資に対する前向きな話を伺う機会は増えてきたが、弊社業界における市場実態は3カ月前と然程変わらず足踏み状態が続いていると感じる。顧客業種により、景況感の捉え方に大きな差がある。
	雇用	金融業	新政権の成長戦略など経済に対する期待感はあるものの、取引先は設備投資を先延ばししており、資金使途は慎重に検討している。
		公共職業安定所	有効求人倍率は12月と比べ上昇しているが、これは例年見られる傾向となっている。過去2年における12月からの有効求職者数の増加率と比較してみると、有効求職者の増加率はほぼ同様であるが、有効求職者数の増加率については過去2年とも約19%の増加があったところ、本年度は約10%の増加にとどまっている状況である。
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	必要なものだけしか買わなくなっている。余計な物を買わないため、客単価が落ちている。
		専門スーパー	客数は前年と比べても変化がなく安定して推移しているしお買い上げの点数も伸びているが、客単価が下落している。より安い物を買う傾向が強くなってきているようだ。
		都市型ホテル	前年と比べると下降気味となっている。
		タクシー運転手	3カ月前と比べると、客数、客単価、利益率は減少傾向にあるので、景気はやや悪くなっていると思う。
	企業	農業関係者	寒さの影響で冬季野菜の収穫量が落ちている。また、円高で石油関連の生産費が上がっている。
		製造業(印刷・同関連業)	受注量が減少している。
		製造業(金属製品)	年末頃は同業者も含め、軒並み稼働率が100%を超えていた。現在は一段落ついている状況。
		製造業(一般機械器具)	テレビ、新聞等はまさに元気ですが、我々機械加工関係はなかなか元気になれません。客先も元気なところは見えません。
	雇用	人材派遣業	人員はまだ増員には至っていない。景気は良くなっているとは言えない。
悪 く な っ て い る	家計	割烹料理店	3カ月前というと忘年会シーズンだったので、それに比べると悪くなっているのは否めません。
		旅行会社	電話の回数も極端に少なく、軽油なども値上げの変動が著しく変わり、バス会社としては厳しい状況です。
	企業	製造業(食料品)	天候不順で梅の開花が遅く、観光客の数が少ない。
		製造業(窯業・土石製品)	受注件数、受注額ともに減少している。

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	－	－	－	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	仕事が順調にくるようになった。	
		レストラン	宴会場と宿泊の売り上げは良くないのですが、株、その他は上向きで、良くなるような気がします。東京などでは以前よりデパートの客が多い気がします。	
		洋食食堂	昼間の来店客数が増えた。	
		日本料理店	お客様の入店数が増えてきた。	
		住宅販売会社	政権交代による景気回復が進み、徐々にではあるが良くなってきている。	
		住宅販売会社	住宅の具体的ご計画者が増えてきた。	
	企業	製造業（化学工業）	国内外とも需要は引き続き停滞しており、稼働が思うように上がらない。円安効果により、利益は多少改善されたが、ここに来て原燃料の高騰が影を落としている。	
		建設業	建設業の場合は、新築棟数が少し多くなってきた。	
		運輸業（道路貨物運送業）	貨物の動きが比較的の良い傾向にある。1月は昨年並みであったが、2月は特に入庫が多かったのが特徴である。貨物の引合いがいくつも出ている。	
	雇用	人材派遣業	最近になりようやく派遣も要請が顕著に増加傾向にあります。しかしこれは円安動向の中で確実に企業業績に連動しているか、または生産そのものが増加傾向にあり実力的に業績が好調で手薄の状態なのかは不明です。正社員を雇用するよりは派遣で間に合わせる状況ではないかと思っています。	
変わらない	家計	小売業（米穀類）	農産物は全般的に価格は高値であったが、出荷量が少ない為に収入は変化しないと思う。一方ではこの冬寒いので、燃料などの負担が嵩むでしょう。	
		商店街代表者	消費者の購買状況に特に変化はなく、依然として低調である。	
		コンビニエンスストア	外的要因もあって客数は伸び悩みはあるものの、客単価と買い上げ点数は伸長し続けている。お客様の消費動向としては、変わらず高い数値を示し推移している。	
		家電販売店	相変わらず商品単価に改善が見られない。	
		自動車販売店	特別に様子の変化なしです。	
		農産物直売所	売上、客数、客単価、比較しても変わらない。	
		小売業（金物店）	2月は景気が一番落ち込む月なので期待はできない。	
		小売業（書店）	土曜、日曜の集客は回復しつつあるが、平日は変化が見られない。	
		観光型ホテル	宿泊予約がのびない。	
		タクシー運転手	売り上げ自体は若干ではあるが下がっている。また、相変わらず夜は動かない。時々お客さんからは、こんな景気じゃ飲んで歩けないとぼやきの声がある。近場はともかく、遠方のお客さんがめっきりない。	
		タクシー運転手	前年同時期の売り上げと、現在を比較すると横ばいか、やや落込んでいる。	
		ドライブイン	大きな変化がみられない。	
		ゴルフ場	来場者は増加しているが、客単価は減少傾向。	
		ゴルフ練習場	来場者及び客単価が変わらないです。	
		理・美容店	景気に変化しない限り、悪くなくても良くなる事はないと思う。	
		理・美容店	店としては少し上向きな感じもしますが、客数・客単価ともに横ばい気味です。理由としては、やはり新年度の準備として通常以外の出費がかさむのでそのしわ寄せがあるのではないかと。そのような特有の要因を外しても横ばいかなとは思いますが。	
		企業	製造業（食料品）	政治に対する安心感は戻ってきているが、消費が伸びる雰囲気までにはなっていないと思う。大手企業のベースアップのニュースも聞いてはいるが、もっと明るい話が出てほしい。景気回復の兆しが見えてくる可能性に期待したい。
			製造業（食品）	新商品への対応で数量が少し増加傾向ではあるが、業界全体としては頭打ちの状態が続いている。
団体	グリーンジャンボは良い売り上げでしたが、他の宝くじは前年より下回っている。			
製造業（鉄鋼業）	特段目に見える変化はなく、悪い状況が続いていると感じる。			
金融業	新政権の成長戦略など景気上昇の期待感を感じられるが、取引先の売上高や給与は前年と比べて増加していないため変化は感じられない。			
保険業	人口減少が続いているのでなかなか良くならない。			

変 わ ら な い	企業	不動産業	円安も困るが、超円安もどうか？業種によってで、建設関係は良いのではないかと。一般に居酒屋や飲食店は悪いような気がする。（ファミレスをのぞいて。）ガソリン関係が上がって、トラックは大変なようだ。
		サービス業	自動車業界が好調であるものの、原子力・エネルギー分野が低迷するなど、業界のばらつきが大きい。
	雇用	民間職業紹介業	当地域においては、製造業(特に電子部品製造業)をはじめとして、求人がほとんどない状況である。ただし、介護医療機関からの専門職は以前と変わらず求人は多い。
		公共職業安定所	一部の輸出関連事業では円安の恩恵が出ているが、コンビナートの物流関連事業では燃料費の高騰により厳しい状況が見られる。
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	必要な量目での買い上げが増えている。余分には買わない傾向が強顧客単価が低下。野菜相場は高いが、小分けを買うので大きな単価アップにはつながらない。
		スーパー	通常販売価格の売れ数がダウンしている。
		コンビニエンスストア	最も感じるのは、お客様の来店される時間のズレや、嗜好性が多様になっており、商品動向が読みづらい事が商売を難しくしている。また、天気が良いからといって来店客数が増えるわけではない。お客様の選択の幅が広がっている事は買い物を慎重に行う心理と合わせて、買い物分散しており、より魅力的な商品を提案し続けなければ競争に勝てない。
		小売業（酒類）	主力である麦酒類の点数が下落している。居酒屋等、飲食店の来店も下落している。
		小売業（薬品店）	客数、客単価ともに減少している。ネット販売に消費者が流れていると思う。
		割烹料理店	時期としては忙しいはずだが、予約の入りも少なく、リピーターのお客様でも予算が下がってきている。
		クリーニング店	卒業や年度末で切り替えの時期なので来客数は多くなりますが、持ち込む点数が少なくなっている。良い洗剤が出ているため、家で洗えるものは持ってこない。
		室内装飾業	新築物件があまり見当たらず、もしあるとしても数件の物件を低単価で取り合うのでしょうか。
	企業	農業関係者	ハウス栽培において燃料価格の高騰が止まらず、メロンの生育にかなりの負担となっている。露地物野菜は平年並みである。イチゴも平年並みの売れ行きではあるが、価格は高い。
		製造業（食料品）	売り上げは伸びておりますが、仕入価格（大豆、油等）が高騰しており、利益率が減少している。
製造業（食料品）		年末に比べ、消費の落ち込みが見られ買い控えが目立つ。	
建設業		3月決算を前に、受注は一段落した感があります。来年度に向けての受注が冷えこむ様子があります。	
悪	家計	タクシー運転手	3カ月前はちょうど年末期でもあり、現在より多少利用の動きがあった。
		タクシー運転手	相変わらず夜間の乗車が悪い。

(4) 県南地域 【現状】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	ボウリング場	利用者に若者（20歳代前半）や家族連れが増した。
	企業	建設業	25年1月～2月22日までほとんど受注がなく開店休業。しかし、党政権、安倍内閣の出勤で景気、財政、金融の政策を打ち出し、株価の底上げ、円安から一気に日本経済の歯車が動き出したと感じられる。当方でも2月22日より26日までの5日間で大型、中型工事5件（民間）が急に決定し、士気が上がる。発注側、受注者、周辺の関連会社ともムード高まる。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	昨年と比べてお客様一人当たりのお買い上げ点数が増えております。客数が増えている店舗も多いです。
		農産物直売所	常連客（リピーター）がほとんどですが、通りすがり、旅の途中、ゴルフ帰り等県外の客も増えてきている。
		専門スーパー	職人風のお客様が増えた。
		ガソリンスタンド	建設業界のアルバイトの条件が向上しており、弊社のアルバイト採用が思うように進まない。
		和食食堂	ファミリー層が増えた。
		洋食食堂	店の売り上げにはまだ反映されないが、「少し金銭的に予定がたってきた」または「余裕が出てきた」との声も聞かれる。
		都市型ホテル	企業における受注状況では、3カ月前より宿泊、宴会も良くなっていることから判断する。宿泊においては、宿泊数に増加があり、宴会は件数より単価が増加している。料飲施設はさほど変わっていないが、個人需要の婚礼は伸びている。
		都市型ホテル	宿泊、宴会ともに問い合わせが増えてきており動きが出てきたように思う。ただし、一人当たりの短歌は思うように上がっていない。
		タクシー運転手	多少売り上げが良い。
		ゴルフ場	前年より予約の入りが多い。季節的（暖くなる）な要因を別にして考えてみても、やや良くなっていると判断できる。
	レジャー施設	前回の調査時に比べ、平均入場者数、1人あたりの購買単価が増えている。	
	住宅販売会社	消費税が上がる前に住宅建築を進めようとしている人達の土地購入が大幅に増えている。つくば周辺の新規分譲地の売れ行きは好調。	
	企業	製造業（非鉄金属）	大手自動車メーカーからの部品受注は、生産台数が国内、北米向けとも増加傾向から、受注量が増加基調にありフル操業に近い。人員も不足気味にある。
建設業		見積依頼件数が若干増えている。特に住宅新築（改築）の方が増えている。	
運輸業（倉庫業）		貨物の動き（入出庫ともに）がやや活発になり、業種は問わず伸びています。消費も増加していると思われます。保管に関しても引き合いが多くなっていますので、やや良くなっている傾向です。	
不動産業		アベノミクスの影響か、県南地区（特にTX沿線）はやや明るさと実績が出てきたが、相変わらず地域間及び業者間格差が広がってきている。県南は開発プロジェクト、大型ショッピングモールの開店予定、大手企業の工場の移転等に伴う具体的な取引きが増えている。	
サービス業（広告業）		年度末予算の動きがある。	
変わらない	家計	スーパー	売上高は3カ月前と比較すると伸びはあるものの、客数及び客単価はほとんど変わらないので、変わらないと考える。
		スーパー	客数、売り上げ等、足元の数字に大きな変化はない。
		コンビニエンスストア	お客様の買われ方に大きな変化はなく、目的購入比率が依然として高い。
		家電販売店	店舗への客数に変化がない。
		洋食食堂	予約状況が特別に変化なし。
		寿司店	前年の同時期と比べて、ほとんど客足に変化がない。
		タクシー運転手	大企業は上向き傾向と聞いているが、私達の業種にはなかなか反映されてこない。
		旅行代理店	例年とさほど変わりがないように思う。
		代行運転手	代行用の電話がならない。他社に聞いても依頼が少ないとのこと。
		ゴルフ場	来場のお客様は景気が悪くはないだけ「良し」とする見方が多い。
	理・美容店	この3カ月は売り上げの変動が大きいので、良い悪いの判断は付けづらいが、春に向けて少しずつ気持ちが晴れやかかも。	
	建築設計事務所	相変わらず受注がない。	

変 わ ら な い	企業	製造業（家具・装備品）	私共の会社は店舗及び工場の2本立てでの営業です。製造は多様化しておりますが受注があるので「やや良くなっている」としたいところですが、店舗売り上げが下がったままの横ばいですので「変わらない」としました。
		製造業（食料品）	円安、株高等で景気が良い様に思われがちですが、円安による原油高でガソリン、灯油等が10%以上も値上がりし、更に小麦、大豆等の輸入食品も値上がりして、我々一般人には経済的負担が益々多くなる。
		製造業（食料品）	暖かくなり、人も多少で歩いているようですが、景気がよくなったとは実感できない。
		製造業（飲料）	商事会社（ガソリンスタンド経営）の営業マンの話で、ガソリンが高値安定していて車で的外出を控えるのではとのこと。
		製造業（印刷業）	客単価が上がらず、来店数も特に増えていない。
		製造業（窯業・土石製品）	災害復旧関連で受注は伸びているものの、工事進捗の遅れ等により売り上げは伸びていない。
		製造業（一般機械器具）	特徴的な動きがない。
		建設業	年末より年度末の方が工事量が増えてくるのは毎年のことである。その分を差し引くと3カ月前と比べてあまり伸びていない。景気は変わらないと判断する。
		建設業（設備工事業）	年度末で売り上げは少し伸びているが、年度末特有で景気が良くなっているとは言えない。
		金融業	売上高は横ばいか、やや減少している先がほとんどである。最近の円安・株高傾向は好材料であるが、依然として個人消費の冷え込みによる影響で、中小企業を取り巻く環境はさらに厳しさを増している。
雇用	公共職業安定所	新聞求職・求人ともに、やや減少傾向です。事業主の方の求人申し込みは引き続き堅調です。	
	求人開拓員	ハローワークに情報収集によく行くが、2月、3月になって求職者が増えている。これは私の経験からして毎年のことで、フリーターが新年度からの仕事をどうしようか動いているためである。特に求人が増えているわけではないので変わらない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	小売業（酒類）	竜巻被害の為なのか客足が少ない。
		スーパー	今月の前年比と3カ月前の前年比を比べると、今月の前年比の方が悪くなっている。
		スーパー	自分だけなのかも知れないが、客数、売り上げともに落ちているように思う。
		小売業（化粧品）	株価や景気は上向きとされているが、まだ消費者の購買力向上までは実感がない。また、最近市の中心部で大型店が開店した影響もあり、消費者の減少に繋がるか不安である。
		タクシー運転手	割烹料理店等の利用客が減少傾向にある。当然弊社へのタクシー迎車回数も以前より少ない。
企業	製造業（窯業・土石製品）	株式市場は活況であるが、一般の会社にはその影響はあまりないと思われる。それより、ここ急激な円安の影響を受け原油が高騰し、重油、ガソリン、軽油等の値上げが大きくなっている。	
雇用	人材派遣業	受注数の減少、人員削減が継続している。	
	学校就職関係者	ガソリン価格の高騰など、生活必要経費が上がっていることで消費活動に停滞、悪化の傾向があると思う。	

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント	
良	－	－	－	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	年度末のこともあり、「アベノミクス」の正体もよく分からず、いろいろなことで少しずつ上昇するような錯覚をしている消費者が増加しつつあると思われる。	
		コンビニエンスストア	今月も客数に関しては前年対比で厳しい状況が続いていますが、お客様のニーズに合わせた品揃えや、お客様へのおすすめ販売の強化（接客の強化）で、一人当たりのお客様の購入される数量が増加してきています。よって、景気は改善傾向と考えます。	
		和食食堂	異動の時期であり、またひな祭りや大感謝祭などのイベントがあり、来店客数が多くなってきた。それにつれて、客単価が上がっているのやや良くなっている。	
		ビジネスホテル	企業の設備投資やメンテナンスなど、人の動きが活発化してきているように思われる。	
		タクシー運転手	社内的には昨対97%の結果だが、個人的には昨年同月比で118%伸びた。客数は減少しているが、客単価の高い仕事が入った。	
		理・美容店	政権が交替し株高・円安の傾向のため、消費者の反応は良い。給与増になれば景気は良くなると思う。	
		住宅販売会社	消費税増税前の駆け込み受注が増えてきた。	
	企業	製造業（食料品）	工場自体の製造高が増えてきている。	
		製造業（金属製品）	新年度向けの引き合いが件数増となっている。何よりも景気回復の空気が前向きな意志を持たせてくれることがありがたい。	
		不動産業	賃貸物件の希望賃料が若干上昇のみである。住みかえの際、現在より優良物件への希望が多い。	
	雇用	公共職業安定所	1月末現在の有効求人倍率は0.92倍であるのに対し、3カ月前の10月は0.89倍であり、やや向上きになっている。就職数は1月末で182名、10月末は264名と、31%程度減少している。	
	変わらない	家計	スーパー	お客様の動向（買い方）に変化は感じない。
			コンビニエンスストア	お客様の1回の買い物でのお買い上げ点数は増えているものの、客単価はほとんど上がっておらず、低価格な商品への比重が増えている。
農産物直売所			来店者は増加しているが、客単価が前年割れとなっているため、全体的に変わらない状況。	
専門スーパー			チラシの商品の動向は良いが、付加価値のある商品等までは手が届いていない。	
和食食堂			売り上げ、来店客数ともに変わらない。	
ラーメン店			3カ月前とは年末だという事で忘年会などで動向が良く、現在の2～3月とは比較しがたい。年度末でもあり、新年会なども過ぎて、商業などでは2～8月の閑散期と考えます。	
和食レストラン			3月は卒業式や法事などで予約は多いのですが、例年同様であり毎年のことです。ただし、一般の来客に関して言えば来店数に特に変化は感じられず、また客単価から見ても相変わらず厳しい状況なので、3カ月前と比較しても変わらないと言えます。	
都市型ホテル			3、4月は学校関係の利用が増える。ただ、謝恩会等は予算が少なくなっているようで、会場費ももらえず、食事も軽食等が多い。	
ドライブイン			客数、客単価ともに横ばい。	
ドライブイン			客単価、来場者数とも変わりはなく、良くなっている感はない。	
ゴルフ場			予約状況にて景気は3カ月前と変わらないと考える。	
日本料理店			来店客数・客単価変わらず。	
レジャー施設			お客様の利用者数も大した増減もなく横ばい状態である。また、会話の中にもネガティブな話題しか出てこない。	
理・美容店			来店サイクルがだいたい2～3カ月のお客様が多い。データを見ても売上げはあまり変化なし。	
農業関係者			直売所での客単価は変わらず。農家も寒さで不作が続いており変わらず。	
企業			製造業（食料品）	弊社の売上げの推移を見て季節的要因を除くと、ここ数カ月は大きな変動がない。仮に上向くとしたら、他の産業の景気動向が上向いてから数カ月から半年位経ってからの事になると思う。
	製造業（窯業・土石製品）	同じ業種でも、業態が違っても、当社に来られる経営者に「今年の景気状況はいかがですか」と尋ねますと、8割位の同業者が「去年より良くない。復興需要がほとんどなくなったから、今年は年初めから悪い」と言う声を多く耳にします。		
	製造業（一般機械器具）	自動車関係は良くなっているように見える。お菓子は毎年今頃は良くないが仕事はある。		
	製造業（電気機械器具）	作業量減少による人員・勤務体制の見直しが、引き続き求められている。		
	建設業	円安や株価高騰はあるが、景気が良くなっているとは感じられない。		

変わらない	企業	電気工事業	景気のよし悪しを語る人が少ない感じがするので、低迷で落ち着いてしまっていると思われる。
		製造業（印刷・関連業）	以前3月頃は繁忙期でしたが、この時期も注文は減っています。
		サービス業（広告業）	年度末予算の動きは多少あるが、全体的には増えていない。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	お客様のお買上げ単価が下がっている。
		ガソリンスタンド	円安、原油高の影響でガソリンが高くなっている。そのためか満タン給油が減少、1000円分、10ℓといった定額・定量給油が増えている。
		旅行代理店	燃料が高くて困っている。野菜も高いので1/2カットで買い物している。
		ゲームセンター	ゲーム機を大幅に入れ換えたにもかかわらず、店舗全体の売り上げが前年売り上げを超える事が出来なかった。
悪くなっている	企業	製造業（印刷・関連業）	本来なら年度末なので忙しい月なのだが、そうでもない。素人でも簡単にワープロを操作できるようになり、この業界も様変わりした。業種自体が不況業種で頭も体も一生懸命頑張っているが、今のところどうしようもない。
		製造業（印刷・関連業）	デフレスパイラルが止まらない。
		金融業	商店街の小売業者は、取引先の減少にともない売り上げは減っている。また、天候が不安定だったことも小売業の売り上げ低迷の要因の一つだと思われる。
悪くなっている	雇用	人材派遣業	仕事量が減っている。親会社にも仕事がない中、下請けに仕事を回しているのに、人材派遣まで来ない。
		学校就職関係者	やや回復傾向の企業も見られるが、全体的には苦しくなっている企業が多いと見受けられる。
悪くなっている	家計	衣料品販売店	12月までは昨年対比で100%を超えていたが、年が明けてからは昨年を下回り、今月は90%前後と低迷している。
		家電販売店	必要最小限のものしか売れない。パーゲンでしか集客が取れない。
		タクシー運転手	通常の年末年始の稼ぎの動きは別として、駅で乗せる大当たりのお客様の単価がかなり下がっているように思います。夜の飲食店の客の数字が上がらないことには營收の上積みは望めない、そういう状況にあるようです。希望的観測として、飲み屋さんのお客様の数が増える事を願います。
		クリーニング店	年末から比べたら、仕事量は減っています。また、お客様からも円安の影響で値上がりしている物もあるので景気は良くないと聞きます。
悪くなっている	企業	製造業（化学工業）	中国・アジア等での配線板・半導体部材メーカーの需要低迷、及びスマートフォン部品需要の減速が見られる。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	小売業（工具）	最近では大型の補正予算も成立したので、夏頃までは景気は上向きが続くと思われる。また、円安により石油価格の上昇など弊害はあるものの、輸出関連企業は追い風となるので、一定の利益を確保できることは先行きの購買意欲を上げる要因となる。
	企業	運輸業	円安や公共事業等の影響が出ると思う。
やや良くなっている	家計	スーパー	雰囲気がいいので期待を込めて。
		スーパー	希望ではあるが、傾向として売り方（タイムリーな商品展開）さえ正しければ購買意欲はあると考えています。店でも新商品への関心は強く、特に健康関連は問い合わせが多い。
		コンビニエンスストア	現在の傾向は引き続きあると思われる。
		小売業（時計）	アベノミクスと言われる脱デフレの道は、イタリア等海外の影響も少なからずあると思うが、必ず上昇気流に乗っていくと思う。ただ、個人の財布が緩むには2年くらいかかるかもしれない。
		スナック	例年春先から色々な行事やイベント等も増え外出や外食の機会が増える。
		観光型ホテル	昨年同期よりも団体宿泊の問い合わせが増えており、予約も順調に入ってきている。個人利用の予約は減少してきているが、その分をカバーすると思われる。よって3カ月先の景気は「やや良くなっている」と思う。
		タクシー運転手	安倍政権が唱えるアベノミクスとやらがニュース等で徐々に効果が上がっていると聞きます。3カ月先にはその効果が当業界にも反映し、多少景気を良くしてくれそうな気がします。
		ドライブイン	震災前の状況ほどにアップする様子は見られない。年配のお客様の消費力に期待したい。
		ボウリング場	一般のお客が増えると思う。
	ゴルフ場	現在のところ、25年度で出だしを見ると4～6月の予約状況は前年並であるが、4～6月合計予約数で前年同期比46%のレベル、25年度計画比70%のレベルで推移している。	
	住宅販売会社	期待値も込めて、多少は良くなっていると思う。	
	企業	林業関係者	自民党政権が動き出し、期待が増している感じがする。でも私達が景気が良くなったと感じるのは、夏場先になると思われる。
		製造業（電気機械器具）	受注もあり、作業量も増えていく見込み。
		建設業	多数の業種で新規物件の依頼が多くなっているため、お客様の投資意欲が上向いてきていると思う。
金融業		景気回復への期待感などから、商業施設への新規出店等不動産の動きが出始めている。	
不動産業		分譲中の土地、建売住宅、マンションとも顧客の購買意識は良くなっているように感じる。	
雇用	学校就業関係者	求人問い合わせが増えている。	
変わらない	家計	衣料品販売店	暖かくなっても客足が伸びる要素がない。
		自動車販売店	県北地区は車がないと生活できないため必要なものであるため、代替や増車は発生するものだが、今後の生活の不安や災害への不安で景気がいいと思えるような購買にはつながらない。
		タクシー運転手	3月、4月は歓送迎会等で多少は利用していただく事が予想されるが、この3カ月間の売り上げが見込んでいた以上に良かったためこれ以上良くなるとは予想しにくく、変わらないと思われます。
		ゴルフ場	前年対比での売り上げ、入場者が減少している。また、首都圏の客が減って、地元の客の割合が上がった（料金の低下）。
		レジャー施設	特に良い要因も悪い要因も見られない。（但し、国内の景気が一部で明るい兆しが見られるので、地方への波及を期待したいところです。）
		理・美容店	円安のため、生活用品（ガソリン、他）が値上がりしている。給料は上がらない。
	企業	製造業（精密機器）	先のことは分からない。
		製造業（製缶）	特に受注が増えそうな情報がない。
		製造業（電気機械器具）	3カ月だけで良くなることは期待できないが、政治で「TPP」への加入が確定すれば、今後良くなる（何かしら変化する）ことは期待できる。
		製造業（電気機械器具）	生産計画では、あまり改善が見込まれない。
		製造業（輸送用機械器具）	現状での見通しでは上記の環境に大きな変化が無いと予想され、当初計画から下回った状況は継続すると想定。
サービス業（広告業）		まだ風評（被害）があり、積極的な動きがない。	
雇用	求人開拓員	受注状況が安定しないため見通しがたたないため、設備投資・人材確保を合わせて見合わせている事業所が多い。	

やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	リストラが進んでいる企業もあるので、消費の冷え込みはあると思います。
		金物・荒物・建築資材	年度初めはいつも売上げが減少する。
		小売業（酒類）	所得が現状のまま、水道光熱費、食品等の物価値上げにより厳しい状況に変わりないと思います。
		和食食堂	お客様の話では、工場の景気が良いという話はない。
		タクシー運転手	予想不可である。
	企業	水産業関係者	原油高への懸念がある。
		製造業（一般機械器具）	見通しより落ちている。
		製造業（電気機械器具）	資材購入費の高騰や受注の減少から、景気はやや悪くなっていると判断した。
		製造業（電気機械器具）	現在の状況が今後3カ月先も継続する見込みである。
		情報通信業（情報サービス業）	業界によっては景気が良くなっているようではあるが、全体的に景気が良くなるには、まだまだ時間がかかると思われる。その中でガソリン価格の高騰等で物価が上がり、景気はやや悪くなると思う。
雇用	公共職業安定所	本年12月～3月にかけて、管内主要企業での早期退職・退職支援制度の実施があり、下請け企業を含めた管内企業等への影響があると思われる。また、2月に実施した管内企業の現況調査や窓口での状況確認等では、今後の状況としては、①数カ月先の受注はあるが、その後は不確定でええ動向が不明であるとの説明が多い。②仕事量は変わらないが、コスト面での価格競争が厳しい状況である。③親会社が取引先と4月以降の契約が取れず厳しい状況である。 など、厳しい見通しとの説明が多く聞かれた。	
悪	家計	居酒屋	お客様の来店が少ない。
		クリーニング店	お客様からも景気の良い話は全くなく、特に茨城県の北部では期待が持てない。

(2) 県央地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	割烹料理店	田植えシーズンになり、農家のお客様がわりとせわしく動き出すので、景気は良くなっていると考える。
		企業	製造業(精密機械器具)
	企業	不動産業	周りの状況を見ても当分続くと思われる。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	株価の上昇など景気の回復が着実になり、良い影響が出てくると思う。
		商店街代表者	価格から質へと移行しており、高額商品を求めるお客様も増えてきている傾向にあり、少し良くなってきていると思われます。
		スーパー	風評被害も収まり観光客も増加するかと思います。しかし、外食が増えたりするのはまだ厳しいと思います。
		コンビニエンスストア	新聞、ニュース等でも放送されている通り、賃金アップ、ベースアップにより消費者の心理状況に変化が起こる可能性が感じられる。
		コンビニエンスストア	小売での買上点数改善は、生産に与える影響も大きいと思います。よって、景気はプラスに向かうと思います。
		自動車販売店	法人関係が売上増になり、設備投資が増えると思われます。
		観光型ホテル	政権交代による景気への期待感が高まってきている。
		タクシー運転手	政府が掲げるデフレ脱却が進み給料に還元されれば、景気は少し良くなると思う。
		ゴルフ場	3月に入り寒さも和らいできたように、お客様の予約が増加傾向を見せ始めている。
		レジャー施設(乗馬クラブ)	現在少しずつ良くなっているので、暖かくなると行動しやすくなると思う。
	カラオケ店	株価推移と期待から、景気はやや良くなっていると判断した。	
	レジャー施設	団体の予約状況や旅行会社の送客状況等から判断すると、回復の兆しが見えているので、少しずつではあるが良くなっていくと思われる。	
	建築設計事務所	新年度予算が大きく増えたことによる期待感がある。	
	住宅販売会社	さすがにあと3カ月経過すれば、株高と円安の影響で住宅購買層も動き出すと思われる。	
	企業	製造業(食料品)	一部大手企業のベースアップが次々に発表されており、景気回復に期待したい。
		製造業(印刷・同関連業)	昨年ではなかったような仕事の受注ができています。
		製造業(窯業・土石製品)	4月～5月にかけて受注状況が多少改善している。
製造業(金属製品)		春先以降の受注が急激に増えている。現在は直近の仕事は断っている状況。	
製造業(一般機械器具)		テレビ、新聞等で報道しているようなことができれば元気になるでしょう。公共事業関係はすぐ効果が出るのですが、物づくりに効果が現れるのには時間がかかるでしょう。	
情報通信業(情報サービス業)		新政権の成長戦略に期待するが、3カ月先ではまだ市場に本格的な動きが出るのには早いと感じる。しかし、顧客様子から景気上昇期待と投資意欲を強く感じることができるので、決算状況にも左右されるが、徐々に景気は回復してくるものと思われる。	
サービス業(広告業)		販促予算を使って、ここ数年再版で済ませていた印刷物など、新しく作成する依頼が増えている。一番先に削減されて、一番遅く計上される宣伝費がようやく使われるようになってきた。	
サービス業(コンサルタント業)		政権交代の後、新しい政策や心理面の影響で景気が上向き可能性がある。それを見越して新しいことにチャレンジする動きがあり、設備投資なども見込まれる。	
サービス業(広告業)		新規、リピートとも、少しずつ受注が増えてきた。	
変わらない	家計	百貨店、総合スーパー	来店客数が若干増加しているが、客単価に大きな変化が見られないことから、今後の景気に大きな変化は見られないと判断した。
		スーパー	日替わり価格やポイント倍率アップなど、これからも取り入れていかないと、前年の売り上げは維持できない状況です。
		農産物直売所	給与が特に上昇していない。公務員退職金引き下げ等のニュースがあるが、これ以上の好転はないのでは？
		スーパー	政権が変わってからの期待感が大きく、上場会社による給料アップなども報じられているため良くなる方向にいくと思われるが、地方で効果が出てくるのは1年後後になりそうです。
		レストラン	社会の不安材料も多く、大きな変化は感じられない。
		レストラン	景気が良くなっていくような動きは出てくると思われるが、外食については急に影響は出てこない。夜の動きが出てくることを期待したい。
		レストラン	新年度に変わるにあたり、各企業の傾向が読みづらく、現状維持と判断します。
		都市型ホテル	梅まつりが開園となり期待をしたいところだが、微減傾向にある。
		都市型ホテル	現在の状況では回復は願っても難しいと思う。
旅行会社	今旅行の申し込みが少ないと、間近にはなかなか入ってこないのでは期待はできない。		

変	家計	ドライブイン	この3カ月先も急に回復するとは思えない。
		観光名所	予約等の状況から例年並の動きを感じる。
		理・美容店	今までのように3カ月先のことも見えなくなってきました。
わ	企業	運輸業（道路貨物運送業）	生産計画に大幅な変化はない様である。
		金融業	地方への経済効果は遅いと感じている。
ら	雇用	公共職業安定所	当所独自調査の結果からすると、管内事業における業況の今後の見通しとしては、「不振～やや不振」とする割合が微増となっており、最近の円安傾向での輸入原材料やエネルギー価格上昇分の販売価格への転嫁が難しいとする企業が多いことが一因である。なお、一部の輸出関連製造業では一定の業績改善も進むものと見られるが、現在のところ今後の大幅な求人・雇用増につながるような好材料には乏しい状況である。
		求人開拓員	企業の景気観は公共投資もあり良くなりつつあると思うが、中小企業の従業員は賃上げも少なく、また円安のあおりを食い諸物価値上げから当面の生活が厳しくなってくる。天候にもよるが、個人消費は伸びないと思う。雇用においては、先行き不透明のため、依然として非正規雇用の採用が多いのではないかと。
や	家計	百貨店、総合スーパー	原油の値上がりに伴い多くの商品がそれに合わせて値上げになってくると考えられ、本当に必要なものをよく考えて購入するようになってくるのではないかと考える。
		スーパー	ガソリンが上がっているので大変だという声をよく聞く。人間が飲むガソリン（お酒）は節約しなければと言う人もいる。
		家電販売店	訪問販売に行っても、あまり良くない。経費は変わらずかかってくる。
		専門スーパー	円安により木材等の輸入商品が高騰してきているし、全体的にも価格が上げ基調になっている。より値段に敏感になってきているようだ。
		理・美容店	予想がつかなく、去年の状況を見ると6月は暇である。
悪	企業	農業関係者	春の農繁期を迎え、資材高騰が影響してくる。
		製造業（食料品）	小麦類、ガソリン等の値上げが業況を圧迫する。
		製造業（印刷・同関連業）	回復する要素が不透明。
		建設業	震災特需の下方安定に向かう。
な	雇用	人材派遣業	クライアントでの大きな増員が見られない。
つ			
て			
い			
る			

(3) 鹿行地域 【先行き】

(ー：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	ー	ー	ー
やや良くなっている	家計	小売業（米穀類）	経済面での安定が計られているので、経済効果が出てきてほしい。その事で物流が活発になれば、景気は上向きになると思う。
		タクシー運転手	現在は最悪の状況と判断するが、徐々に景気も良くなるかと期待する。（現在の安倍内閣に期待。）
		タクシー運転手	コンビニート地区で定期修理の関係で忙しくなると思うので、全体的に売り上げが伸びる。
		理・美容店	レジャー費が増えている話をよく聞きますので、サービス業には良いと思う。ファミレス、回転寿司などの外食が増えた話も聞く。
		住宅販売会社	消費税増税前の需要が出てくると思われる。
		住宅販売会社	新政権になり少し期待を持てるような雰囲気がする。住宅計画者も増えている。
		製造業（食料品）	陽気が良くなり、また新年度を迎え人・物の移動があり、消費も上昇すると思われる。円安により、原材料の値上がりが懸念されるのが心配だ。この時期値上げはできない。
	企業	団体	数字選択式くじで新商品（ロト7）が4月より発売されるので、良い見込みが立てる。
		製造業（鉄鋼業）	希望も込めてだが、デフレ脱却の政策の期待感が出てきているように感じる。
		建設業	消費税が上がるので、駆け込み需要があります。
		運輸業（道路貨物運送業）	4月からのすべり出しほどの業界も順調に進んで行く傾向にあると考えている。7月までスムーズに行ければ…という期待がある。
		運輸業（道路貨物運送業）	4月からの新年度においてはあまり代わり映えしなかったのですが、東北地方の災害復興事業向けの鋼材の出荷が多くなると予想されている。
		サービス業	円安傾向が製造業全体でプラスに働くと考える。
		人材派遣業	まだまだ予断は禁物ですが何とか良くなってほしいと思い、期待・願望を込めて景気はやや良くなっていくと判断しました。新年度頭初から生産現場の増産を大いに期待しています。
	就職支援センター	公共事業の増加や金融緩和による景気回復の期待から、企業マインドとしては前向きな話が企業等から聞かれる機会が出てきている。	
変わらない	家計	商店街代表者	良くなる要素がなく、個人の所得が増える様子もない。
		商店街代表者	継続的な仕事がなく、このまま良い調子に仕事ができるのか不安。
		コンビニエンスストア	雇用と収入が変わらない限り、特別上向きになる要件は見当たらない。景気としては変わらず推移すると考えます。
		コンビニエンスストア	株価上昇で一見景気がよくなっているように感じるが、将来に対する不安材料を解消するまでには及ばず、堅実に必要なものを消費しようとする心理はなお強いと感じる。
		家電販売店	今後においても景気改善の情報は見当たらない。
		自動車販売店	特別に変化はないと思う。
		小売業（金物店）	公共工事が増えてくれば忙しくなると思う。
		小売業（書店）	この数カ月変化が見られない。
		レストラン	業種として大手チェーン店に押されぎみで、中小企業はなかなか良くなる気配はありません。
		洋食食堂	昼間の来店客数は好調だが、夜のお客様の来店が少ない。
		割烹料理店	コンビニートの企業のお客様が多いのだが、常連のお客様で転勤や退職の方が多く、新規のお客様が来店してくれるか難しい。
		日本料理店	地元大手企業が合併後の再編があるようだが、しばらくは変わらないだろうと思う。
		タクシー運転手	給与は上がるのか、ボーナスはどうなのか等、気になる面が多々ある様に見受けられる。
		ドライブイン	国内の景気動向を考えると依然厳しい状況がうかがえる。
ゴルフ練習場	今のところ良くなることも悪くなることも、その様子は感じられないです。		
理・美容店	景気に変化しない限り、悪くなくても良くなる事はないと思う。		
クリーニング店	将来への不安があるので、少しでも安い物をという考えが定着している。		

変 わ ら な い	企業	製造業（食料品）	多分、現状維持状態が続くと考えます。売値は下がり、買値（仕入）は上がり…という状態と思われます。
		製造業（食料品）	消費税増税の雰囲気や電気代の値上げ、ガソリン高騰など、現実的に景気の良くなる雰囲気ではなく、政府の経済政策で株価は上がっているが、円安で輸入原材料は上がると予想されている。アベノミクスで中小の企業に良い影響が出てくるのか不安を感じる。
		製造業（食品）	この先も新製品への期待は続くと思うが、逆に既存の製品が減少傾向にある。
		製造業（化学工業）	在庫減らしが終わり多少なり稼働アップを期待しているが、原燃料の動向次第では利益確保が難しい状況か。
		金融業	取引先は製造コストである資材価格の高騰やガソリン価格が上昇しても、販売価格への転嫁は難しいと判断している。3カ月後も景気は良くならないと考えている。
		保険業	団塊の世代が退職し、後継者がなかなか育たない。
い	雇用	民間職業紹介業	現状から推測すると、介護医療機関以外の求人求職とも厳しい状況は続くものと思われる。
		公共職業安定所	求人申し込み窓口に来所する事業所の動きが見られるようになって来ている感触もあるが、まだ製造業では消費拡大の見通しが出てきたとの話は少ない。
		学校就職関係者	新政権で期待はしているが、3か月先はまだ変わらないと思う。
やや悪くなっている	家計	スーパー	光熱費の上昇が予定されているので、食費がますます抑制される恐れがあります。
		スーパー	スーパーでのお買い上げ点数や、衣料品の売り上げがダウンしている。
		小売業（薬品店）	地元大手企業の合併で、景気は厳しくなってくると思う。ネット販売の規制をしなければ、街の商店街は無くなってしまふような気がする。
		室内装飾業	向かい風が吹いてばかりで、3カ月後になったら追い風が吹くとは考えられない。
	企業	建設業	年度末を控え受注アップが見込まれますが、人員不足の現場もあり、利益アップにつながっていかないように思います。
		不動産業	色々な物が値上がりするようですので、建設関係が特に気になります。消費税の関係で、業種によっては人手が足りないみたいです。
悪くなっている	家計	小売業（酒類）	景気の上向き要素が見当たらない。
		タクシー運転手	経済界が良くならないと、今後も希望は持てない。
	企業	農業関係者	燃料（灯油）価格の下落が見込めないと判断しており、打撃は大きくなる一方である。

(4) 県南地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	ボウリング場	現政権に国民が先の明るさを見出したのではないかと思われるし、自分もそう思う。
	企業	建設業	7月の参議院選をにらみ、100兆円に上がる今年度の予算が多方面に放出、社会資本整備と共に復興工事と合わせて強靱建設工事が一挙に発注されるものと、国民の期待ははるかに大きい。友人企業も、少し仕事を取すぎたようだ。職人が不足しているが、栃木県、群馬県の方から応援を頼んで何とか5月頃までに完成させたいと話している。ただ、忙しい割には利幅は薄い。
やや良くなっている	家計	スーパー	最近売上高がわずかではあるが上昇傾向なので、やや良くなっていると考えられる。(お買い上げ点数の伸びもある。)
		コンビニエンスストア	消費税増税になるまでは現状が続くと思います。アベノミクスの影響が大きいです。
		家電販売店	お客様の話題の中で、景気面への期待が上がっている。
		農産物直売所	客数は変わらないが客単価が上がり、売り上げは伸びている。
		専門スーパー	工具や金物(資材)等の売り上げが良くなっている。
		ガソリンスタンド	時間はかかるが徐々に上向くような雰囲気がある。
		和食食堂	ここ3カ月程前年比を上回っているため続くと思われる。
		洋食食堂	やっとな寒さから解放され、人々の動きも良くなると思われる。
		都市型ホテル	オンハンド状況から加味すると予約数もそこそこ伸びており、この状況から推移すると景気が多少良くなっているように感じます。また、営業先での話題も宴会を入れたいなど景気の良い話をもらいます。
		都市型ホテル	動きが出てきているので、多少ではあるが良くなるように思われる。
		タクシー運転手	多少売り上げが良い。
		ゴルフ場	メンバー等顧客の会社等では、円安傾向をよしとする発言が多く、今後景気の上昇が見込めるとの見方をしている。
	レジャー施設	昨年に比べ、今年に入ってから売り上げが伸びている。今後も景気が良くなっていく要素(経済政策等)がある。	
	理・美容店	アベノミクスの効果を期待します。やや円安・株高で、どこまで実経済が良くなるか?	
	建築設計事務所	見積等の依頼が出てきた。	
	住宅販売会社	土地購入の動きが活発化しており、ここしばらくは続きそうな勢い。	
企業	製造業(窯業・土石製品)	大型補正予算の執行により、県内の公共工事案件が増えて来ると思われる。	
	製造業(非鉄金属)	大手自動車メーカーの3か月インフォメーションでは、3月がピークで4月、5月については、1月予想時から10%程度増産計画にある。国内、海外ともに順調に推移中。	
	建設業	震災復旧や除染関係の工事は今後あまり期待できないが、アベノミクス効果なのか民間会社関連の見積り提出が増えてきている。3カ月先もそうであることを期待し、景気はやや良くなると思うと判断した。	
	建設業	工事件数が増えると同時にお金の流れが増える。	
	運輸業(倉庫業)	今後3カ月先を考えた場合、業種によっては在庫をため抑えるため減産する部分もあるが、全体的に見るとやや良くなるのではないかと考えます。	
	不動産業	現在の状況が更に拡大して明るい見通しを感じられる。反面、格差の拡大も進むと思うが、基本を大切に相手に奉仕し、喜ばれる仕事をすれば必ず支持を受け、良くなっていくと思います。	
サービス業(広告業)	受注、見積り依頼が増えてきている。		
変わらな	家計	小売業(酒類)	2月は悪かったので、幾分でも良くなって欲しいと思うが分からない。
		スーパー	依然として、低価格品の支持が高く、点数の伸長もさほど見られない。
		コンビニエンスストア	価値を感じて頂いた商品やサービスの代価は払うが、そうで無い事やモノへは厳しいと判断される。
		洋食食堂	お客様の話や周りの状況に特に変化なし。
		寿司店	安倍総理に期待したいです。商売の業種にもよると思いますが、寿司そのものが難しいのかな。
		タクシー運転手	ここ数カ月、夜のお客さんが少ない。
		旅行代理店	春に向かって行楽のシーズンとなるが、お客様の増加の傾向は見られない。旅行費用も安価なものを選択するなど、出費を軽減しているようです。
		タクシー運転手	一般顧客はシルバー層が増えているも、会社関係の接待や飲み会の減少が見られ、変わらないと考える。
ゴルフ場	現在はやや良くなっていると判断したが、今後3カ月は前年と変わらない予約で動きは鈍い。現在の動きは短期的なもので、先行きはまだまだ不安を抱えているということか。		

変 わ ら な い	企業	製造業（家具・装備品）	職種柄良くなっていかなくてはならないのですが、ここ数年来あまり変化がないような気がしてなりません。
		製造業（食料品）	円安や株価上昇で景気が良くなることを期待したいが、まだ先のように感じられる。
		製造業（飲料）	景気のいい話を聞かない。
		製造業（印刷業）	来店数の増加が見込めない。
		製造業（一般機械器具）	景気の良くなる材料が見当たらない。
		金融業	消費者心理は、電力料金の値上げ、所得の減少などで低迷しており、先行きは慎重な見方が続くと思われる。
	雇用	人材派遣業	3カ月先は、人材派遣業界においては例年であると横ばいの時期である。
		公共職業安定所	卸小売、介護、サービス業中心に堅調ですので、特に変化はない。
		学校就職関係者	すでにある程度の家計の支出のうち減らせる項目は絞られてきているため、経済活動に変化は見られないが、消費税の増税などに対する先行きの不安から景気が上向くことはしばらくなく、停滞すると思う。
		求人開拓員	大企業同士が合併する。地元の工場や下請けにどう影響するかが分からない。円安で輸出が伸びても、雇用にどう影響するか分からない。
やや 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	物価上昇分利益が取れなくなるのではないかと。
		小売業（化粧品）	近所の店数軒が閉店し、集客率がより下がる可能性と、客単価及びお買い上げ数量が減少気味のため、景気回復に時間がかかりそう。
		代行運転手	一般人の給料は年々悪くなっている。
	企業	製造業（食料品）	原材料の高騰が続き、悪くなるように思う。
		製造業（窯業・土石製品）	原油高の影響により油類にとどまらず、加工品の値上げ等が予想される。公共工事の大幅な増加はあるが、資材高、生コン等の入手困難、人手不足等により採算が悪化していて利益は少なくなっている。
		建設業（設備工事業）	役所等からの3カ月先の発注予定が激減する見通し。ガソリン高騰の影響を考えると、良くなるとは思えない。
悪	家計	スーパー	大手スーパーが2店出店したため、その影響が出るとされる。

(5) 県西地域 【先行き】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	タクシー運転手	季節も暖かくなり、新政権も加速度的に高支持率を維持し「アベノミクス」も威力を発揮しているようです。タクシー業界も安倍政権の支持率みたいに急激に好転する事を心から願いたいと切に思う今日この頃です。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	一時金ではあるが、年収増の話は各所で聞く事ができており、近直では価値を感じてもらえれば価格が高い物でも購入される方が増えてきているように感じます。
		専門スーパー	工業団地に勤務する方がお客様に多数いらっしゃるため、円安影響で賃金等のアップによる売り上げアップが期待できる。
		ラーメン店	年度末～新年度と、新たな事業が動きはじめるとして新年度はかなり期待しています。
		ビジネスホテル	今の動きが当面続くと思われる。 長期滞在者の比率が増えている。
		ドライブイン	株価の上昇や円安により、景気回復の兆しがやや出てきており、期待をしたい。地方への波及にはやや時間がかかるものであり、中折れしない事を祈ります。
		日本料理店	歓送迎会の需要がある。
		理・美容店	この3カ月は特殊技術(パーマ、カラーリング)のお客様が増加している。当店は女性客が多いので売り上げアップにつながっている。
		住宅販売会社	来年度は駆け込み受注が更に増えると思われる。
	企業	製造業(食料品)	取引先との雑談の中で、最近の経済動向と自社の売り上げ動向から、これから数カ月後は多少なりとも希望が見えてきたのではないかとの明るい話が増えてきた。
		製造業(化学工業)	円安の好影響、及び一部半導体部品メーカーでの需要回復情報がある。
		製造業(窯業・土石製品)	当社においては、現在の円安に進みつつある「為替動向」は歓迎です。なぜならば、中国製品との価格差が、モノ、加工内容では負けないものも出てくるからです。しかし、良い点ばかりではなく、悪い面もあります。原材料の仕入れ価格が上昇していますので、歩損の少ない加工方法を考える必要があります。
		電気工事業	円安による経済効果が徐々に波及してくると思われる。
		不動産業	以前は中古を求める客が多かったが、新築の土地を求める客が増加傾向。
	雇用	人材派遣業	(4月～5月には)少し仕事量が増える予定で、現在は準備中です。
変わらない	家計	スーパー	地方ではまだ、特に食料品小売では、アベノミクス効果は期待できない。
		家電販売店	季節動向で左右されると思うが、変化は期待できない。
		農産物直売所	初夏野菜やメロンなどの果実の販売、特に果実等の贈答品需要の増加を期待しているが難しいのでは…。
		ガソリンスタンド	仮にインフレになってきても、給料アップにはまだ時間がかかる。
		和食食堂	報道等では景気の上向きを言っているが、お客様のお話や周りの状況からも他人事のように感じられます。
		和食食堂	周りの景気がいくらか良くなってきているが、6月は梅雨の時期で客足が伸び悩む傾向にあるが、客単価や利益率は変わらない。
		和食レストラン	3カ月先の6月は梅雨の時期なので、一般的に雨の日の来客数のほうが晴れに比べて良い傾向もありますが、その他のことで特別景気が良くなるような要因は見受けられません。最近夜の来客数が伸び悩んでいる状況は今後も続くと思われれます。
		タクシー運転手	相変わらず、夜の飲み屋、飲食関係の仕事が少なく苦戦している。閉店の数も多々見られる。
		タクシー運転手	アベノミクスの風だけ。
		ドライブイン	景気回復の兆しはあるが、個人の消費に影響があるまでになっているとは思えない。
	ゴルフ場	現状の予約状況にて、景気は変わらないと思う。	
	レジャー施設	「来週も来館できるかわからない」など、お客様は常に手探り状態である。少なくとも景気が良くなるとは限らない。	
	理・美容店	半年前、1年前と比較してもあまり変わらないので、今後もあまり変わらないだろう。	
	企業	農業関係者	現在の状況では、先も燃料の高騰などで変化はなし。
製造業(食料品)		原料、資材が主に輸入したものを使用しているので、利益を圧迫してくることが考えられる。世間一般的にはこの円高の影響が良い面に向く方が多いと考えられるが、事業所の感覚で答えました。	
製造業(印刷・同関連業)		アベノミクス効果で中小零細企業にも、また地方にも、株高の好影響が及んでくれれば、すべてが好回転してくれると思う。「やや良くなっている」方向に行ってくれることを期待したい。	
製造業(一般機械器具)		今年は自動車関係の仕事が増えるので、協力をして欲しいとの話があった。	
製造業(電気機械器具)		受注動向が不透明であり、人員・勤務体制見直しの継続を各職場から求められている。	

変わらない	企業	建設業	景気が良くなる期待はあるが変わらないと思う。
		金融業	円安や株価上昇など経済の明るい話題はあるものの、市内の中小企業や個人事業に反映されるのは当面先のことと思慮され、特段変化は見られない。
		製造業（印刷・同関連業）	地元商店の客離れが見られる。
		サービス業（コンサルタント業）	圏央道、筑西幹線道路、国道354バイパス工事と、道路工事は大変な賑わいを見せていますが、裾野の広い建築工事等は変化が見られない（新築住宅の着工や工場・店舗の新設等）ことなどから、大きな変化はないものと感じております。
		サービス業（広告業）	受注案件は増えてきているが、1件あたりの額が削減されている。
	雇用	就職相談員	円安による消費者物価の上昇により消費が低迷し、小売業や飲食業界の求人増は期待できない。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	良くなる要素がない。
		コンビニエンスストア	近隣に競合店出店の情報があります。また、道路開通も直近にせまっており、人の流れの変化で来店客数の減少が予想されます。よって、景気はやや悪化していると予想されます。
		都市型ホテル	行事等もなく、企業等の利用も極めて少ない。
		旅行代理店	燃料がどこまで高くなるか、見当がつかない。レギュラーが150円/ℓに近づき、それを超える勢いである。全体的に物価が上がるだろう。
		ゲームセンター	ゲーム機を大幅に入れ換えて売り上げが上がらないのであれば、今後しばらくの間売り上げが上がる要因が見当たらない。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	インフレターゲット＝物価安定政策で物価上昇を目指すらしいが、自社の現状の経営実態を見ると給与の引き上げは不可能であり、経営の圧迫と困窮が予想される。
雇用	公共職業安定所	小規模な人員整理も発生しており、今後も続くと思われる。	
	学校就職関係者	大手メーカーの海外生産・調達が進んでおり、今後更に進行するものと思われる。	
悪	企業	商店街代表者	景気上昇を期待している消費者でさえ、必要最小限のものしか買わない傾向にあると思われる。年々その傾向が強くなってきている。
		クリーニング店	ガソリン等の値上りなどで家計の負担など増していると聞きます。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	株高、円安など、経済波及効果が出てくるのは年後半か。期待している。
	スーパー	道の駅や地元野菜取扱店は売れている。当社も地元野菜コーナーは売上増加傾向。野菜の高値状況もあるが、新鮮さ（品質）が注目されている。
	コンビニエンスストア	リストラなど悪い流れが一段落している様子であり、心理的には余裕が出てきているのではと感じます。
	コンビニエンスストア	昨年と比べると気温の変化が大きいため、それに影響する商品の動きは大きくなっている。
	小売業（酒類）	近隣の製造業では仕事量が減少していると聞く。
	小売業（時計）	定年を終えた年齢の方々が、商店街を歩く姿が見られる。菓子店、レストラン等の動きは少し良くなっているように思う。高額品の動きはまだない。
	レストラン	早く良くなる事を祈りたいです。
	スナック	相変わらず、エコカーの新車に乗りかえる方や走っている車を多く見かけます。
	和食食堂	どんどん店閉まりしていくのが進んでいます。
	旅行代理店	建設業界、土木業界の社員旅行の問い合わせが増してきている。
	タクシー運転手	過日格安の宿泊旅行を申し込んだら、既にキャンセル待ちがいるということで、格安なもの申し込みが殺到するという話でした。しかし価格が高いものは、内容を吟味され申し込みも少ないということでした。
	タクシー運転手	地元企業の系列会社3、4社が、4月に統合合併することになり、これによりタクシーの利用がどのように変化するのか、良くなることを期待するばかりです。
	ゴルフ場	若い客層が減った。
	ゴルフ場	近隣ゴルフ場の動向に変化があり、他のゴルフ場でのコンペにつき当クラブへの引き合いが出始めている。引き続き、低料金の流れは覚悟しないといけない。自民党の経済再生の動きと、予算執行状況に注視するとの声が多くなっている。
	レジャー施設	県北地域の一部企業のリストラがあり、ハローワークに行くと今まで以上に求職者数が多くなっている。人員補充の求人をお願いと、以前より応募者が多い。
理・美容店	地元大手企業が良くないので、市内は人出が少なく景気は良くない。	
企業	林業関係者	物価（ガソリン等）上昇が先に来ているので、個人の景気が上向きになるように期待している。
	水産業関係者	燃料費の影響が大きい業種のため円安の動向などは不安要素になってしまう。
	製造業（精密機器）	派遣社員が多い気がする。国の将来が不安だ。
	製造業（製缶）	他社で一時帰休を実施しているという話を聞く。
	製造業（電気機械器具）	円安株高により、主に輸出関連企業の業績が好調とか、定期昇給や一時金の会社側が満額回答とかの報道があるが、我々中小企業にこのような影響が及ぶのは当面先のことであると思う。また大手企業は新規卒卒車の採用数を増加すること。ますます採用しにくい状況となった。
	製造業（電気機械器具）	季節的（年度末）なものも影響しているのか、試作の依頼が多くなる。また、産業機器関連の仕事が通常の2倍ほど受注している。
	運輸業	昨年末からの円安で、周囲の方々も何となく景気回復に期待を膨らませている感じですが、現状では原油高等も物資の値上げが先に来ていて、あまり嬉しくありません…。
	金融業	エネルギー関連事業として、太陽光発電に関心を示す事業者が増えてきた。
不動産業	慢性的な職人不足が続いている。また、それによる建設費アップが問題になっている。	
雇用	求人開拓員	海外に流出している事業所（製造業）と同じ見積もりでないと受注できないので、仕事を受けるか迷いがあるとのこと。仕事があっても、赤字になってまでやるべきか悩んでいる経営者がいます。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計	商店街代表者	震災から2年が経過したが、建築、土木関連などの業種は復興関連の需要が多いと思うが、なかなか他の業種までにはその波及がないと思う。	
	商店街代表者	当店は印鑑店で、2年位前は来店客の8割が入店するなり「安い印鑑を」と言っていました。今年に入ってから8割の人が「良い印鑑を」と高級品や質を求める様になってきました。個人消費は良くなってきています。また、今年は特需があり、4月1日から財団法人・社団法人の認可が一般か公益に選択して登記をしなければなりませんので、組織の名称変更の印鑑・ゴム印の受注が多く、バブル期と同等の仕事量です。しかし、当時と確実に違うのは、受注単価が下がっていて仕事をやってもやっても利益が上がらないことです。お客様の購入方法も、店頭から事業所での購入に変わってきています。自宅、事業所において、通販カタログやネット購入が浸透したことや、価格破壊や価格競争で比較することが通常化してしまいました。また、10年以上前と違うのは、民間企業の受注は少なく活力がないことです。経済回復にアベノミクスの効果はあるが、円安、株価上昇だけでは一部の企業、人が良いだけで、内需拡大、雇用対策、所得上昇をしないとインフレだけが先行して景気回復が失速してしまう心配があります。円安で心配なのは、ガソリン・石油が上がり、石油製品や海外製品の値上がりで買い控えが起こったり、輸送流通コストや電気料金、交通機関の値上げ、観光等に影響が出るのではないかとということです。	
	百貨店、総合スーパー	セール品や季節商品でなくても、今欲しいもの（今必要なもの）を買うという傾向が見られる。	
	スーパー	為替の影響で値上げ品が見受けられる。輸入品は全て関係してくるので、多数になると思います。売価の転化は難しい状況です。また、消費税アップに伴う売価設定や表示に関して、値上げ状況など気になります。今後の動向に注目しています。	
	スーパー	特にありませんが、自店に入っているテナントさんも売り上げは前年より落込んでいます。	
	コンビニエンスストア	朝の時間帯の工事関係者の客数が減っていると感じられます。震災復旧工事等による特需は減少傾向だと感じる。	
	コンビニエンスストア	価値のあるものが売れています。安いだけでなく、適正な価値と価格が消費の理由になってきていると思います。	
	農産物直売所	ギフト商品の単価が上がっているように思う。（バレンタインは高価格な物が多かった。）	
	スーパー	帝国データバンクが実施した「小売業者の経営実態調査」によると、売上減収率1位は岩手県、2位は茨城県となっており、厳しさを痛感しております。	
	レストラン	震災から2年が経ち、水戸借楽園梅まつりには人が戻ってきたように感じられる。	
	都市型ホテル	5月にはライバル店もオープンを迎え、売り上げに大きな影響がないことを願う。	
	観光型ホテル	以前よりお客様の表情が明るいように思う。	
	タクシー運転手	街コンなど各種のイベントで多数の人が訪れている事は、活性化の意味でも大きいと思う。	
	旅行会社	スーパーなどの食品の値上げが数多く見られる。特に野菜で、キャベツ・レタス、ほうれん草など。	
	観光名所	商売柄、割れ物の販売をしているが、未だに地震への不安を口にするお客様が多く、高額商品の販売にも影響があると感じております。	
	レジャー施設	お土産の購入単価は上がってきており順調に回復してきているが、飲食に関してはまだ回復が見られない。そこでしか食べられないような魅力的なメニューを提供しないと利用してもらえないと思われる。	
	理・美容店	世の中では株など上がって良い方向へ向かっているようですが、私共の周りでは相変わらず良い話は聞きません。	
	建築設計事務所	新政権への期待が高いように思える。	
	企業	農業関係者	T P Pの動向が注目される。
		製造業（一般機械器具）	ガソリンの値上げが止まりません。ネジ屋さんが材料が上がるので値上げをお願いしたいとか。その他、たくさんの物の値上がりが予想されます。どういう世の中になるのでしょうか。
製造業（精密機械器具）		環境規制に関する大物装置の引合い、受注が増えています。こしばらく無かった動向です。	
建設業		注文と請けのアンバランスによるトラブルを懸念する。	
運輸業（道路貨物運送業）		メーカーなどは物流拠点の見直しや、物流の最適化を考えている。	
情報通信業（情報サービス業）		ガソリン代の高騰が著しく、日替わり価格の様相を示しており、また、円安の影響なのか、近隣小売店の輸入食料品等も若干値上げされてきたようだ。しかし、近郊大型店の日曜・祭日の人出は、これらの価格上昇が景気回復への障害になる心配は不要と感じるほど相変わらずの賑わいだ。	
金融業		消費税の増税を見越して、高額な商品（車、建物等）を購入する話題がある。	
雇用	サービス業（コンサルタント業）	水戸市の中心市街地では、国の補助金も手伝って、東日本大震災で被害を受けた建物の修繕が進んだ。また、空き店舗への新規出店がいくつか見られるなど新陳代謝も進んだ。工事が一通り終了すれば、相乗効果でまち全体の来街者数の増加が見込まれる。	
	求人開拓員	今冬は寒さが厳しいおり個人消費（冬物衣料）が伸び、生鮮食品（葉物野菜）の値上げがあり。また、円安によりガソリン・灯油など生活必需品の値上がりがあり、生活が厳しくなりつつある。	

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	円安によるガソリン、原材料の高騰が経営を圧迫。またインフレを克服するほどに消費者の所得が増えないという厳しい環境に、地域(地方)の経営者は困窮している。
	商店街代表者	今まで壊れていても我慢して使っていた物を修理したりする人が増えてきたように思うので、少しは余裕が出てきたような気がする。
	スーパー	目玉商品、値引き商品の売り上げがアップしている。特に値引き商品が異常に売れる。また、タイムセールなどのお買い得時間にお客様が集中している。
	コンビニエンスストア	お客様にとって好みの商品があれば、確実にリピーターにつながる消費行動がより顕著になっている。品質や価値の高い商品は期待され、目的購入につながるチャンスが大きい。
	レストラン	当たり前かもしれませんが、シニア世代の方々が元気で、サークルや旅行等を楽しんでいるようです。初詣も、以前に比べれば2世代、3世代での家族連れが多く、家族の大切さが分かってきた方が多い気がします。
	洋食食堂	更地が増えたが、新築の住宅やアパートの建設が進んでいる。 パート・アルバイトさんが集まりにくくなっている。 不景気と言われて久しいが、仕事を持たない(持てない?持とうとしない?)主婦が多い様思う。
	日本料理店	海上風力発電が決まったようで、クリーンエネルギー事業で新たな雇用が生まれる事を期待している。
	タクシー運転手	現況では特に動きが感じられないが、当地区では4、5月に工業地区の定期修理時期を迎え、活況を期待する。
	ドライブイン	団体のお客様は、去年と比べ増えてきている。
	ゴルフ場	来場者は増加傾向にある。
	理・美容店	毎月の出費を抑えつつ、少しずつお金をプールしてレジャー費にあてている感じがします。また、車を新車で買うお客様が増えているようです。もちろんローンだが、長く乗るつもりで買ったのか?
	クリーニング店	太陽光のソーラーパネルを取り付ける家が増えてきています。将来の事にお金をかける傾向にあるのではないのでしょうか。(車でいうと、ハイブリットカーなども増えている。)
	室内装飾業	以前若い職人さんがタケノコのように独立していたが、最近問屋さんに伺ったら、仕事の減少と施工単価の激安で、この業界を見切り辞めていくそうだ。
	住宅販売会社	土地購入層が動き出している。
	住宅販売会社	やはり新政権への期待感が日増しに高くなっているような気がします。
	農業関係者	メロン農家が急激な燃料費の高騰に悲鳴を上げている。
	製造業(食料品)	仕入コストが上昇するばかりで、スーパーは特売と称した値引きが多く、最近その傾向が非常に強く、生産者は薄利多売を余儀なくされています。
	製造業(食料品)	風評被害の影響が少なからずある。
	製造業(食料品)	東北の被災地復興を見ると、日本の経済は被災地復興なくして回復は無いように思う。
	製造業(食品)	食品業界では消費者の財布の紐は堅く、無駄遣いはしない傾向が続いているため、新製品の開発が活発となっている。
団体	ガソリン代の値上がり止まらないのが困る。	
企業	建設業	就活の時期ではありますが、やはり3Kのイメージは強く、若い人材が集まっていません。労働力の高年齢化に拍車がかかっているように思われます。
	製造業(鉄鋼業)	地震復旧工事が続いており、地元建設業の仕事が続いていけば良いと思う。
	建設業	土木建設の場合も震災需要が多くあります。建設機械リース業も忙しいみたいです。
	運輸業(道路貨物運送業)	「アベノミクス」の金融政策の効果が出てきたと肌で感じる事が出来るかがキーポイントだと、お客様との話で感じる。 梅の花がまだつぼみの状態であるが、観光客が意外と多い。ホテルのランチタイムは待っている人がたくさんいる。景気が悪い訳ではないのではないかな。
	金融業	為替の円安と株価の上昇にともない、株式等の運用の話が取引先の中でよく出てきている。
	保険業	政権交代でドル高円安で株が11,559円になり一部の人に明るさが見える。
	サービス業	自動車業界の先行きがやや明るそうで、引き合いが増加している。中国市場向けは明らかに低下している。
雇用	人材派遣業	最近賃金・一時金の引き上げ努力でデフレからの回復が盛んに言われていますが、個別企業の立場から見ればそう簡単に引き上げる状況とは見られません。これまでの疲弊した企業体力と適切な設備投資も要する中では、サラリーマンの消費意欲は容易に引き上がるとは思えません…。
	学校就職関係者	円安のためか、ガソリン、灯油が高騰している。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	小売業（酒類）	商店街はみな同じ様に客足が少ない。
	農産物直売所	近くにスーパーが3件ありますが、野菜は当店が良くて買いに来るというお客様が多く見受けられます。
	和食食堂	ファミリー層が増え、家計に少し余裕が出てきたと思われる。お酒を飲まれる方は減少傾向にある。
	洋食食堂	先日会合があり町へ出たが、平日だったせいか静かなものであった。タクシーの運転手の方も、週末だけですよと言っていたが、そろそろ変わってきてほしいものである。
	洋食食堂	本当に何も動きがない。安定している。駅（ゆめみ野駅）ができて、宅地の販売もスローペースだが売れて少しずつ建物が建ち始めている。
	寿司店	昨年の6月より長男と一緒に仕事をする事になり、メニューがいっぱい増えました。寿司以外は肉料理、揚げ物、焼き物、蒸し物など色々です。最近のお客様は、一杯飲みながらつまみを注文して、客単価は少し下がりましたが、毎日常連客が会社帰りに来てくれます。少し様子が変わって花が咲き始めたかな。期待したいです。
	都市型ホテル	宿泊では、確かに数年前と違って単価は減少したままであったが、周辺ホテルより多少価格帯が高単価な弊社でも稼働がよくなっている。宴会では、件数こそ昨年同件数ぐらいではあるが、規模が大きい単価、人数とも増加傾向が見られた。
	タクシー運転手	会社近くの飲食店では昼間はそこそこお客さんが入っていますが、夜は入らないので閉店時間を早めたりしていて、タクシーの乗客はいません。
	タクシー運転手	土浦駅南口の大型店舗が2月17日で閉店。人の流れは真鍋新町に集中していくと見られる。現在生活の買い物としてホームセンター、スーパー、レストラン等が集中している。また、1月29日に銀行支店がオープン、2月28日には大型電器店が新規オープンした。
	タクシー会社	政権交代により、アベノミクスに大きな期待をかけ、デフレ脱却を望む。
	ゴルフ場	ゴルフ会員様の相場が上昇しつつあり、これは株の上昇に連動しているとのこと。今後の景気は上向きになるのではないかと。
	ゴルフ場	この寒い時期に燃料（電気、ガス、灯油）が全て値上げし、また交通費としてのガソリンも値上がりして厳しいという話をよく聞く。これらの直接生活に影響する物の値上げは、我々娯楽業の集客、また設備費に関しても厳しい影響を及ぼす。
	ボウリング場	政権交代により、「政府のやるべき事はやるが、国民の負うものは負ってくれ」と、先がはっきりしてきた感じがし、将来に明かりが見えてきた感じで生活に張りが出てきた。
建築設計事務所	設備投資の兆しがある。	
住宅販売会社	思った以上に増税前の駆け込み需要が増えてきている。増税後の反動（消費落ち込み）が心配。	
企業	製造業（家具・装備品）	店舗のある商店街（古い町並み）は、店主の高齢化で、昨年来、また今年の春閉店するお店がありました。新しく開店する方はおりません。何とかしなくてはと焦りますが…。
	製造業（食料品）	原材料が値上がりしても製品は値上げしにくい。電気料までも上がっては、我々中小企業にとっては益々不景気になってくる。
	製造業（窯業・土石製品）	金融円滑化法が3月末に終了し、その後の中小企業の資金繰りが懸念される。
	製造業（非鉄金属）	最近の円安傾向から燃料代が高騰、加えて4月からのコストダウン要請が強く、収益面は悪化の方向にある。2%の物価高の容認は理解できるが、社員の賃上げ原資を確保することも必要で、大手のコストダウン要請は2年程度棚上げするよう政府も声を大にしていかがかと思う。
	建設業	一般民間企業での発注気運が高まっている。製造ラインが勢い強く動き出した。見込み生産の会社もある。（ハウスメーカー、乳製品、パン業者、ダンボール会社、銅製造会社）ホテル業者は予約増、割烹や法事の予約料理は酒別で5000円以上が増えている。など、多方面で利用客が増加している。友人の家族でも2～3泊の旅行の計画などちらりとある。6～7年間ほとんどなかったのに珍しい。
	建設業	個人でやっている工務店さんもこのところ忙しそうである。民間個人の工事が主なのだが、去年はそれほどでもなく当社で時々常用していた。少しずつだが、個人の外構関連も動いてきているような気がする。
	建設業	住宅の新築の話が出ることが多くなったように感じる。消費税の問題が影響しているようだ。
	金融業	税金の未納による税務署からの調査依頼、差押が依然として多い状況である。
雇用	不動産業	企業の社宅の放出に伴う需要の問題、高齢化に伴う持家、介護事業の問題、日本全体の構造の変化と直近の円安に伴う問題、今年9月までの消費税の問題等が取り引きの中で表れている。今後これらの構造的な変化に我々として対応する能力が求められると思う。
	学校就職関係者	授業料などをすぐに支払えない家庭が出てきている。生活保護世帯ではなくても、経済的に非常に厳しい家庭が増えていることが懸念される。生徒によってはリボ払いによる借金が当たり前になっており、毎月の返済を滞納しているという話も聞く。リスクに対する危機感もなく、何か問題が起これば簡単に返済不能に陥るような状況下。消費活動に対する基本的な考え方のゆるさが、将来的に経済活動全体に影響を及ぼすのではないかと懸念される。
	求人開拓員	去年よりもおととしよりも、年度末になって当事務所が忙しくなっている気がする。ハローワークも同様であるが、統計ではそのようなデータはない。今年は特になので記入した。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計	商店街代表者	紳士服、婦人服の店を4代に渡り経営させていただいていますが、1月～現在まで学生服、セーラー服しか売れていない。このようなことは初めてで、今後の対応策に頭が痛い。
	商店街代表者	以前は「お安くなっています」とおすすりめすると、2人に1人は買っいてくださった品でも、なかなか手を出してくれなくなった。
	コンビニエンスストア	直近で常磐道の守谷SAのスマートインターチェンジの工事が始まりました。周辺の店舗に弁当の予約が入るなど、好影響を与えています。今後も工事の進捗に伴い、予約件数の増加や周辺店舗への来店増が期待できます。
	ガソリンスタンド	洗車もワックス洗車より、価格の安い水洗い洗車が増えた。
	和食食堂	ある意味落ち着いているように感じられます。
	和食食堂	町中で景気の回復を期待して色々なイベントを開催しているので、少しでも早い景気の回復を願っている。
	ラーメン店	身辺にはあまり感じられないが、新たな政権政策が復興事業を主体に公共事業などを含めた景気対策を進めていけば、かなり良い動向になるのでは。
	都市型ホテル	黄砂、PM2.5、煙霧等がひどく、外出して街を歩く方が少ない。
	旅行代理店	市内のお店（食料品を除く）が元気がないように見えます。街中を歩いている人がいません。買い物はどこでするのだろうか？
	タクシー運転手	最近お客様を乗せて思うことは、40～60代の女性は皆さん比較的明るくて元気いっぱい。反して男性陣はどうかしたのかと思う位元気がないのが気になる今日この頃です。でも、我が家も「神さん」の方が元気いっぱい暴れているからしょうがないかなあと思うよネ！
	日本料理店	電気代の高騰が心配。
	ゲームセンター	3月は毎年卒業した中学3年生や高校3年生で賑わいますが、今年は今ひとつ盛り上がらない状況です。
	理・美容店	消費に対する気持ちがかかなり良いのでは。女性客の動きでよく分かる。
住宅販売会社	政権交代後の株価上昇が一時的なものなのか、まだ半信半疑の状況が見られる。	
企業	製造業（食料品）	求人募集を出しても、以前より集まりにくくなっている点が考えられる。職安の求人倍率の通りになっていると考えます。
	製造業（印刷・同関連業）	アベノミクス効果で（と言ってもまだ何もやっていないのに…！）日本中がワクワクしていることは良いことだ。何事も気持ちが大事だし、景気も良くなるでしょう。大手ばかりでなく、地方の中小零細企業にも好景気の恩恵が回ってくるような政策を期待したい。
	製造業（金属製品）	ここ数年と比較して設備関連には引き合いが多い。
	建設業	廃業個人会社が見受けられる。消費税の増税後の景気が懸念される。
	電気工事業	社会の活気が低下してしまっていると思います。
	金融業	景気回復に向けての政策に期待はしているが、成長戦略に対する持続性に対して不安が多いことから、地元商店街の利用客の客数、使用金額は低迷している。
	不動産業	消費税増税を意識してか売上の来客が多い。
雇用	サービス業（コンサルタント業）	道路工事はたくさん行われており活気があるように思います。しかし、それだけで景気を向上させられるかと言うと大きな疑問がわきます。
	人材派遣業	忙しくなるようですが、まだ動いていません。
	学校就職関係者	自動車・建設機械関係企業では、中国経済の鈍化の影響で年明け以降急激に仕事が減少している。
	就職相談員	大手企業においてはこれまで契約社員の雇用期間を何度か更新してきたが、新たな契約満了時には更新しないと申し出ている企業がある。